廓清

明治四十四年八月一日第三種郵便物認可
明治四十五年三月十五日發行
（毎月一回十五日發行）

第二巻第三號

主張　社會之改良・風紀之廓清・男女之貞潔・家庭之和樂

東京 廓清會本部 發行

廓清會綱要

(一)**本會の目的** は男女間に貞潔の德操を進め、社會の風紀を廓清し、家庭の和樂人生の幸福を增進するにあり。而して公娼制度は此目的に反する惡制度なるが故に之が全廢を期す。

(二)**入會の心得** 右の趣意を賛成するものは男女を問はず何人も入會することを得。入會希望者は住所、氏名、職業、年齡を記して本部又は支部に申込むべし。(賛助會員は口數を明記す)

(三)**會員の特權** 會員には本會機關雜誌「廓清」を每號寄贈す。

(四)**會員の種類** 會員に二種あり。

一、**賛助會員** 本會の維持費として毎月一口(二十五錢)以上を出資するもの。

二、**正會員** 毎月金五錢を納むるもの。

(五)**會費の納入** 會費は郵便爲替、又は振替貯金東京一九五三三番益富政助に拂込まれたし。但し郵便集金にて集金する時は集金料金五錢を添加せられたし。

(**注意**)前項振替口座は、必ず一九五三三番益富政助氏宛とし、裏面に廓清會々費と明記せられたし。

廓清會本部役員

顧問 伯爵 大隈重信
會長 島田三郎
副會長 矢島揖子
同 安部磯雄
會計 山本邦之助
常務理事 益富政助
理事 內ヶ崎作三郎
同 鵜崎庚五郎
同 矢吹幸太郎
同 山田彌十郎
同 小松武治
同 小崎千代子
同 島貫兵太夫

廓清 第二卷第三號

明治四十五年三月十五日納本 一部定價金六錢
明治四十五年三月十五日發行 (每月一回十五日發行)

編輯兼發行人 東京府下大久保百人町百三十八番地 益富政助
印刷人 東京市神田區三河町一丁目十六番地 小林照雄
印刷所 東京市神田區三河町一丁目十六番地 丸利印刷所
發行所 神奈川縣川崎町砂子百三番地 廓清發行所

身を極貧に起し誠實勉勵遂に今日の大成功を遂げたる森村翁が自ら過去七十年の奮闘的生活と其に依りて得たる活教訓とを述べたるものは本書也其の修養其の經營等悉く萬人處世の活模範也獨立自營翁に學ばんとする青年は勿論立身成功を望む者の必讀すべき良書なり（内容一斑左の如し）

森村市左衛門翁述

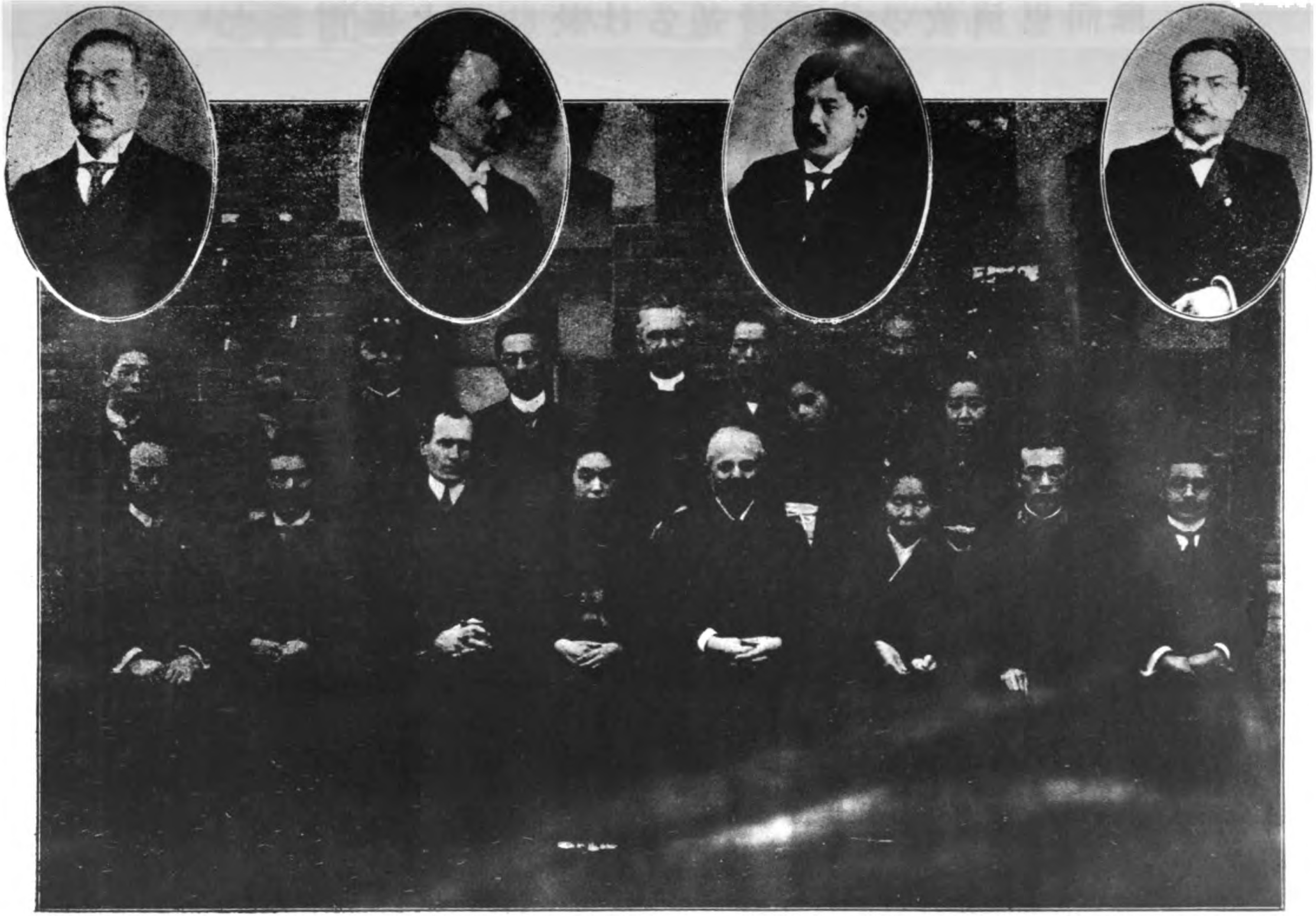
奮闘努力の典型 獨立自營

定價壹圓拾錢　郵税八錢
四百五拾餘頁　上製總クロース　金文字入美本

△被傭根性 △實力主義 △自働的活動 △獨立獨歩 △人生の本務 △立志と成業 △大海も一滴 △立志の要件
△獨創の氣象 △獨立と就職 △創業の準備 △時勢の視察 △持重耐忍 △創業と奮闘 △艱難と決心 △創業の出發
△轉逆得順 △絶大の耐忍 △砂上の樓閣 △對職業觀念 △福翁の嗟嘆 △米國の教育 △學校出と小僧 △子弟教育法
△無方針修學 △青年の誤解 △青年の感謝 △辛抱の精神 △過分の希望 △現在の立場 △秩序的執務 △商賣と氣轉
△靈妙の頓智 △積極主義 △成金主義 △事業家資格 △無報酬主義 △豫想外報酬 △獻身的努力 △愚直主義
△精神の結合 △贈答の悪弊 △店風の完成 △支店監督法 △監督の一法 △主人の心得 △店員の訓練 △店員の待遇
△青年の空想 △奮闘の理想 △服從と獨立 △良友の指導 △成業の眞義 △實力養成法 △安心立命 △奮闘と養生

發行所　東京京橋南紺屋町　實業之日本社　郵便振替貯金口座東京三二六番
賣捌　全國各地書店

廓清會役員及び其同情者



大阪支部委員
オルチン氏
安部副會長

島田會長
群馬支部委員長
德江亥之助氏

（前列）益富常務理事　山室大佐　矢島副會長　グレゴリー氏　島田會長夫人　ボールス氏　小林富次郎氏　山本會計
（後列）[illegible]



大阪南區火災に於ける基督教徒の救済慰問隊

本號に於ては順序上娼妓擁護會としての廓清會を説明する筈であつたが、宗教問題が此頃のトピックとなつてゐるので、順序を代へて本題をとつた所以である。

廓清會とは何ぞや

(其　三) 宗教尊重會

(一) 宗教家會同問題

昨年末より本年にかけて世間を騷がした問題は、内務省の宗教家會同問題であつた。此に就ては世間に種々の批評も出て、贊するものあり、難ずる者あり、議論に花を咲かしたのであつたが、兎に角二月二十五日を以て愈々三教者の會同は成り、先以て好成績を收めて散會するに至つたことは、我々の欣喜に堪えざる所で、特に斯の如き會同を催すに至つた内務省の精神、其目的に就ては吾人の大に贊同する所である。即ち床次内務次官曰く『國民道德の涵養は教育と宗教と相俟ちて始めて全きを得べきものなり』曰く『神といひ、佛といひ、天といふ所に常に接觸するに非ざれば公明正大なる思想を堅實に養成し得ざるべし』曰く『故に一般に宗教を重んずるの氣風を興すべし』曰く『故に當今は正しく宗教をして更に力あり權威あるものたらしむるの愈々急なるを覺ゆ』云々、

(二) 政府自ら宗教を尊重するを要す

抑も此趣旨たるや、誠に公明正大の議論にして我々は『時事新報』と共に『當局者の宗教に對する見解は其當を得て間然すべき點なき』を信ずるものである。

偖吾人は實に此の如く信ずるが故に茲に是非共當局者の一考を煩はしたい問題がある。何ぞや、曰く公娼問題、是である。何となれば若しも當局者が眞に『宗教をして更に力あり權威あるものたらしめん』と欲するならば、先以て當局者自身自ら言ふ所を實行して『宗教を尊重せねばならぬ』即ち先づ宗教の權威を無視し、之に背反するが如き政策や制度は着着之を改めて行かねばならぬ。福澤翁は『德教は目より入りて耳より入らず』と云つた。之は實に個人に於ても國家に於ても其通である。政府たるもの如何に口を以て宗教の重んずべきを説くと雖も、若し政府の政策其ものが宗教の權威を無視し、宗教の教條を蹂躙するが如きものであつたなら、之れ取りも直さず當局者の言行不一致であり、矛盾であり、自家撞着である。斯の如きは決して善良なる政治家の屑しとせざ

る所、而かも又眞に民を治め之を悅服せしむる所以でないと信ずる。

(三) 貞操に關する佛敎の戒律

今それ我國の公娼制度なるものを見るに、此は決して宗敎と兩立し得べきものではない。先づ之を佛敎の經典に照して見んに、梵網經に曰く、

『佛の曰く利養の爲と雖も男女の色を販賣る勿れ、斯くの如きは正しき生活に非ず』と。

此れ實に千古不磨の誡律であつて、公娼(賣淫免許)と佛の精神とは到底相容るゝ能はざる處のものである。現代の佛敎徒の意見、並に其の生活が如何であるかは吾人の關知せざる所であるが、兎に角釋尊其人に遡りて之を繹ぬれば公娼制度と佛敎とは到底兩立する事は出來ぬ。更にその華嚴經に見よ。

『弟子よ、邪なる婬を離れ、自らの妻室にて足るを知り、他の女人に於て一念だも慕ふ情を生せざれ』と。

・その八師經に見よ、

『婬は不淨の行たり、迷惑して正道を失し、命を傷けて早く死し、罪を受けて頑痴となり、死して復惡道に墮す、此故に敢て淫を亂す勿れ』その智度論に曰く、『佛說き給はく邪淫に十罪あり、何等をか十と爲す。一には己の夫又は妻に危害せられ。二つには夫婦睦しからずして鬪諍す。三つには諸の不善は日々に增長し、善は日々に減損す。四には身を護らずして妻子を孤寡となす。五には財產日に耗ゆ。六には諸の惡事あれば常に人の爲に疑はる。七には親族智識の愛喜せざる所となる。八には怨みを受くる業の因緣を種ゆ。九には身終らば地獄に入る。十には來世人となるに女なれば多くの他の女人と共に一人の夫に使はれ、男なれば妻貞潔ならず。』

斯の如き誡律を擧げ來れば、一にして足りないのであるが要するに佛敎徒にして若しその師に忠ならんと欲すれば自ら蓄妾を爲し、或は遊女に戲るゝの破戒なるは云ふ迄もなく、賣婬を公許して之を營業となし、之を以て生活の資たらしむる處の公娼制度に對しては全然反對の態度を執らなければならぬ筈である。

(四) 貞操に關する基督敎の敎條

更に又基督敎に就て之を見んか。

『爾姦淫する勿れ』

とはその十誡の一つである。而して基督は更に之に就て解釋を施して曰く。

『古の人に告て姦淫する事勿れと言へるとあるは爾曹が聞し所也、然れど我なんぢらに告げん、凡そ婦を見て色情を起す者は中心すでに姦淫したる也、若し爾の眼なんぢを罪に陷さば拔出して之を棄てよ、蓋五體の一を失ふは全身を地獄に投入らるゝより勝れり。』(馬太第五章二十七節より三十節)

更にパウロは同じく貞潔の德に就て命じて云ふやう。

『聖徒たるに符ふが如く奸淫および凡ての汚穢たる事また

貪婪ことを互に言ふことだに爲す勿れ、淫辭と浮言と戲謔を言ふなかれ、是宜しからざる事なり、寧ろ謝する事をすべし、蓋はすべて奸淫するもの汚穢たる者および貪婪者すなはち偶像を拜む者のキリストと神との國を嗣ぐを得ることは爾曹知ればなり』(以弗所五。三―六)又曰く。

『神の旨は爾曹の潔きこと即ち姦淫をせず各〻己の器を以て之を潔く貴くなして用ゐることを知り、神を知らざる異邦人の如く情慾を放縱にせず、又この事に就き兄弟を欺き、かつ害せざらんことを要め給ふ、凡て斯る惡事を行ふ者に主報をなし給ふなり、われら曩に爾曹に告げかつ證せるが如し、それ神の我儕を召きたるは我儕の汚れたる事を行ふを要むるに非ず、潔からんことを求め給ふなり。是故に慢るものは人を慢るにあらず、其聖靈を爾曹に賜ひし神を慢る也。(帖撒羅尼迦前書第四章三―八)

(五) 政府の矛盾、自家撞着

以て基督教が如何に不貞操の行を以て罪惡視するかが分る。

而して斯の如く佛教と云ひ基督教と云ひ之を認めて罪惡となし、之を誡めて正しからずとしてゐるのに、政府が公娼制度を設けて、その國民に不貞操の營業を爲さしめ、姦淫を以て金儲けの道具と爲し、『利養の爲と雖も男女の色を販賣るは正しき生活に非ず』といへる、その正しからざる生活を營めるものを待つこと、良民と毫も異る所なからしめ、此に良民同等の權利を與へ、否な甚だしきは良民に長たらしめ、(府下府中町に於ける町長の如き)或は良民の代表者として神聖なる國會に議席を有せしめ、帝國の國政に關與せしむるが如き、實に宗教を愚にするの甚だしきものであつて、これ宗教の權威を尊重せざる所爲であるのみか、實に之を無視し、之を蹂躙する所のものである。故に一方に於て宗教を尊重せよといひ、一方に於て公娼制度を存置するは、之れ明に政策の矛盾であり、自家撞着であり、否國民を欺網するものであると謂はれても辯解の辭はあるまい。或は曰く公娼制度を廢したりとて全然娼婦を無くするとは出來ない。さらば事實に於ては五十歩百歩ではないかと之れ廢娼論の要點を知らないものである。我が言ふ所は賣淫の事實の有無ではない。之の事實に對する國家の態度如何である。公娼制度を廢しても、邪淫の事實を勦絶する事は出來ないとするも、之に對する國家の態度は宗教と等しく之を罪惡視すべき筈であつて、決して之を營業として公許すべき性質のものでない。

要するに若し當局者にして眞に宗教をして力あり權威あらしめんと欲するならば、先づ第一に如上の矛盾を取除かねばならぬ。故に公娼制度の全廢を期する我廓淸會の運動は取も直さず『宗教を尊重して更に力あり權威あるものたらしめん』とする當局者の心を以て心とし、之を現實にせんとするの運動であつて、軈て又吾人が本會を以て一名宗教尊重會と稱する所以である。

グレゴリー氏を送る

我等が敬愛なるグレゴリー氏が我廓清會の招きに應じて日本に渡來せられたるは昨年十月の初旬であつた。爾來茲に五ケ月間、同氏が吾等と共に日本に於ける此重大なる問題の爲に、此正義人道の戰を助けられた事は永久に紀念すべき事柄である。

第一グ氏は此幼稚なる廓清會の發育に大いなる助を與へられた。子供を育てるにしても最初の一年間は最も大事な時である。グ氏は實に此間に來つて此幼兒の爲に保姆のやうな役を勤められたことである。

グ氏は我廓清會を世界の同志の仲間に入らせられた。斯の如き問題は他人から指圖を受くべき問題でないことは申す迄もないが、併し乍ら同志と共に互に相勵まし合ふと云ふことは大切なることである。

此問題の惡の方面が世界的である以上、善事も世界的でなければならぬ。

グ氏は又海外の此問題に對する消息を詳細に吾々に敎へられた。而して之は吾々に取つて如何ばかり有力なる運動であつたか分らぬ。

グ氏は又識者有志の間に此問題に對する注意を喚起された或は内務省或は陸軍省を訪問し、偖は又度々の演説會等に依つて我國に於ける識者の注意を促されたことは一通でない。

グ氏は又最近に各所に出張し、それに依て或は群馬縣の如く、靜岡縣の如く或は京都市大阪市の如き之が支部の設立を見るに至つたに就ては氏の助力の大なるを認めねばならぬ。就中大阪に於ける難波新地遊廓の廢止に就て氏の直接間接の働きは實に大なるものと言はねばならぬ。

グ氏が著された英文及日本文の小冊子は永く日本に存して此問題の好資料となると思ふ。

吾々は斯の如くグ氏の働きの偉大なりしを感謝すると共に又彼の人物の極めて日本に於ける此運動にふさはしかりし事を喜び且つ感謝するものである。氏が三十年以來此問題に就て研究し、經驗し得たりし所のことは勿論吾々の尊敬に價する所のものであるが、併しそれよりも尙グ氏の其幼兒の如き無垢にして、單純なる人格、古人の所謂「大人赤子の心を失はず」「幼兒の如くなるは天國に於て大なるものなり」の言葉に洩れず、常に謙遜にして我等の間に交はられたる氏の智識と、其經驗以上我等に特別なる感化を與へたことである。

露骨に云へば氏が到着せられざりし以前に於ては問題が問題であるだけ遣方如何に依つては却つて國民に反感を買ふやうなことがありはせぬかと多少氣遣ふてゐたのであるが、併

は全く杞憂に屬した。氏は日本に到着するや否や、先づ第一に吾々に語つて言はるゝやう、私は此問題に就て日本の事を批評する爲に參つたものではない。各國には各〻特種の事情もあることであるから、日本の事は日本人で適當に處置を付くべきもので決して自分が干渉すべき限りでない。たゞ自分は此種の問題に就て多くの經驗を有して居るが故に、其多年學び得たる經驗と、資料と數字とを其儘提供して聰明なる日本國民の此問題に對する參考に資したいと云ふのであつた。而して同氏は實に此最初の誓を遺憾なく實行された。或場合に於ては隨分吾吾は同氏に對して我儘な、無理な注文もしたことがあつた。けれども此等の場合に於ても氏はつひぞ其ニコ〳〵とした容貌を變せられたことはない。げに思へば思ふ程氏が其人格に依つて我等に與へたる感化印象は永久に忘るゝ事が出來ぬ。吾々は此點に於て氏に對し謹しんで感謝の意を表すると同時に、斯の如き善き友、善き勢援者を送られた我同盟國に於る廢娼同盟會の委員に對し厚く〳〵謝意を表する者である。

留別の辭

モーリス、グレゴリー

私も愈々三月八日を以て長崎を發し、香港に赴く筈と相成りましたが、私が日本に渡來致しましたのは、昨年の十月でありまして、今日迄恰度五ヶ月間御國に滯在した譯であります。偖此滯在五ヶ月間私は常に如何なる希望と精神とを有つて居つたかと申しますと、どうか日本人の爲に役に立たい。忠實に働きたいと云ふ精神を有つて居つたのであります。

私は又日本滯在中、有ゆる宜き方面を觀察することを怠らなかつたのであります。其は歸國の上自分の友人に對して、日本人の美點を紹介するの光榮を得んと欲したからである。私は歐羅巴に於て多數の崇高なる品性を備へたる男女の友人を有してゐるのでありますが、日本に於ても亦多數の崇高なる品性を有してゐる方々を見たのであります。

私が二十一歳の青年でありました時、ブリストルで救世軍の集會がありました。其時大尉のチョージといふ若き婦人がブリストルの汚はしい町の部分に這入つて、大膽なる働を爲した事を今尙記憶して居るのであります。此場所は公に許されたる遊廓ではありませんが、併し警官ですら這入ることを遠慮してゐるといふやうな恐ろしい魔窟なので、這入る時には必ず一人では行かない。二人若しくは三人隊を組んで這入つて行くといふやうな有樣であります。斯の如く大男の警官

すら隊を組んで辛うじて這入れるやうな危險な場所にまだ年若き婦人が這入つて行つたといふ事は、其大膽なる又其健氣なる精神に感服せざるを得ないのであります。ジョルジ婦人は十二人の兵士を率ゐて、此汚はしい町にと這入り、而して暫くして歸つて來たのでありますが、ア、其時の姿は如何に十二人が十二人共、此衣服は引き裂かれ、手足は血に塗れ實に慘憺たるものでありました。此の結果を見たる當局者は非常に驚いて遂に之が裁判沙汰となり、此汚はしい町の所有者は重懲役の刑に處せられたのであります。

私は日本に來りまして同じやうな事を承りました。即ち山室大佐がその部下を率ゐて幾度か吉原に突貫し、その度毎に種々な迫害もありましたが、兎に角當局者の態度は常に救世軍に同情を寄せて居られると承るは喜ぶべき事である。私は當局者が吉原の攻擊する救世軍に味方せらるゝのみならず、更に進んでその救世軍の精神に同意を表し、吉原を廢する日の一日も早く近からん事を希望するのであります。吉原は過去三百年間に於て二十一回の火災に罹つたといふ。私は將來再び火事が吉原に起る事は望まない。然し乍ら火事の代りに軈て政府の決斷が吉原を取拂ふに至らんことを希望するのである。

偖又二十一年前英國及び歐羅巴諸國に於て社會矯風の爲に大に力を盡されたる英國のバットラー夫人は私共に對し、此問題に就て非常なる美はしき同情の籠れる手紙を賜はり、私は毎日の如くに此手紙を讀んで、自ら慰め、又それに依りて

勵まされてゐるのでありますが、私が東京に着きました當時も亦大隈伯爵邸内に於て開かれた歡迎會の席上に於て矢島老女史が私に對して麗はしい手紙を下されたのでありまして私は毎日の如く其手紙を讀んで愉快を感じ、是等の手紙を一種の守袋のやうに思ひ大切に所持してゐる者であります。

又歐羅巴に於きましては、多くの大學の教授が吾々の運動の贊成者でありまして、例へばケンブリッジ大學のスチュアート教授の如き其一人でありますが、私が東京に參りまして、初めて出席したる公けの演說會に於て承つた日本に於ける此運動の同情者、早稻田大學の教授の浮田博士の綿密なる統計と議論といふものは、是迄歐羅巴に於て所々に開かれた此種の運動に關する講演者の何れも殆んど劣らない處のものでありました。其他茲に立つてゐられる内ヶ崎教授の如き或は安部教授の如きも實に此地の有力なる學者であります。

又歐羅巴諸國に於ては多くの有名なる新聞雜誌記者が吾々の同情者となり、大なる味方となつて居るのでありまして、二人の記者の如き餘りに極端に吾々を助けられた爲、遂に獄屋の人とまでなつたのであります。其内の一人は佛蘭西のパリーの雜誌記者エプローといふ人でありまして、此人が佛蘭西の公娼制度に極端に反對した爲、六ケ月間の懲役を受けたのであるが乍然此人が佛蘭西内閣の人となり、外務大臣となつたのであります。私は日本に於ても多くの有力なる記者諸君が、吾々の運動を助けられつゝあるを感謝するのである。私が日本に參りまして以來最も快心な事は先達て大阪に

參りました時、此所にお出の基督教世界の主筆加藤君の紹介によつて、大阪に於ける有力なる新聞記者諸氏に面會したのであります。而してその五人の大阪の新聞記者が如何に親切丁寧に我々を遇して呉れられしか、又ジャパンタイムスの記者のお方が日本に到着して以來、今日に至る迄非常な同情を寄せて呉れられたる事、何れも感謝の外はありません。

それから英國に於ては吾等の運動の爲に有力なる代議士諸君が大に助力を與へ呉れた。その一人はスタンフィルといふ人で此人はグラッドストン時代の有名なる政治家でありました。日本に於ても此處にお出の島田三郎氏の如き、廓清會の會長として吾々の事業に大なる同情を表して居らるゝのみならず、自ら先頭に立ちて此運動を牽ひて居られます。同氏は私が云ふ迄もなく日本に於ける政治界の大立者であります。昨日靜岡へ參りまする途中、汽車の中で五時間程此有名なる政治家と共に旅行いたしまして、種々の問題に對して談話を交換したことを私は非常なる光榮と信ずる處であります。

私は英國に於て一人の老いたる紳士を知つて居りますが、此老紳士は今迄斯かる問題に關聯して大に盡された。其功勞に對し、英吉利皇帝及び佛蘭西の大統領より勳章を受けてゐるのであります。此處に御出になる本會の理事益富君は滿洲の野にあつて多くの惱める同胞姉妹の爲に矢張り同じ樣に骨を折られたのであります。乍然益富君は未だ英吉利の皇帝よりも又大統領よりも勳章を受けて居らないのでありますが益富君は若い處の前途遼遠なる方であるが故に、同君の頭髮軈て白髮に化する時代に至れば、恐らく帝王、國王大統領より都合三個の勳章を拜授せらるゝに至るのであらうと思ふのであります。

私は青年時代に於て英國のマンチエスターといふ工業地で同志の友と此問題を熱心に研究したのであります。大阪は日本のマンチエスターでありますが、私は此大阪に於て驚くべき多くの聽衆に對して演説する機會を得たのであります。昨夜靜岡の劇場に於ける集會も滿場立錐の餘地なき盛況であつて、尙多數の人が空しく外に立つて居る事實を見たのでありますす。思ふに此運動は今後諸君の熱誠により益々盛大に赴き其集會は必ずや毎回堂に溢るゝことでありませう。

最後に私は西洋の大英國より東洋の大日本に參つたのでありますが、(内ヶ崎氏の手を堅く握つて)茲に大英國と大日本國とが握手を致してお別れを致すのであります。(拍手大喝采)(内ヶ崎作三郎氏通譯)

○長崎の公娼廢止演説會　市民一般のために催されたる萬國公娼廢止同盟會幹事グレゴリー氏の演説會は七日午後八時より袋町青年會館に於て開會公娼廢止の理由と題して公娼制度並に檢黴制度に就て一場の講演を試み其他にも數氏の演説ありたるが聽衆無慮八百に及び十一時過散會したり因にグレゴリー氏は八日未明春日丸にて上海に向へり(長崎日日新聞)



國民の品性

廓清會評議員 文學士 三輪田元道
三輪田高等女學校教頭

(一) 平衡を失したる現代

私は人間の生活を內部外部の兩面に分つて、吾日本國民の現在を觀照して見たい。我々は戰爭によつて世界の一等國民となつた、物質的文明は浸々として長足の發達を見た、併しそれ等は外部生活である。我等は果して內面的生活に於ても一等國民と誇稱し得るであらうか、以下少しく研究して見たいと思ふ。

內的生活とは宗教の如き文學の如き趣味の生活を謂ふのである故に日本國民の內的生活を知むとせば先づ日本の宗教と文學を見なければならぬ。古い歷史と多くの信徒を有する佛教は、其迦藍の傾ける樣な事はないであらうか、坊主が位牌を售るやうな事實がなからうか、基督教は怎うであるか、其莊嚴なる會堂に反響のみ高い寂寥を感ぜぬだらうか、牧師は神に祈らずして人に聞かする禱を捧げてはゐまいか、要するに我等は日本宗教界の活躍を認むる事が出來ない、日本國民は少くとも宗教上精神生活を認むる事は出來ないのである。

然らば文學は如何、頃者愈々文藝院の設立を見るに至つたけれども、之れ果して文學の隆んな標徵であらうか、私は斷じて『否』と叫ぶに躊躇しない。これは畢竟文學の最も墮落し衰頽した結果之を救濟せむが爲に置いたと見る事の最も至當なるを感ずるのである。即ち文藝院の成立は文學墮落の象徵である。之を以て若し後世の歷史家が史を編むに當つて、明治四十四年文藝院設置せらる以て當時文學の興隆をトすべし。等と書く者あらばそは眞に平凡なる歷史家と云はなければならぬ。賢明なる史家は必ずや其由つて起つた理由の眞因を捉へ、文學の墮落を慨くに相違ない。片々擾々たる現代文藝の何處に燦爛たる藝術の光輝があるか、何處に末代に傳ふる大文學があるか、一の馬琴、一の巣林子すらないではないか。而して道德は如何、今日は小學教育より中學に至る迄、皆修身教科書があるけれども、識者たらずとも今日の倫理教育を疑つてゐるのである。今日の如き智的教育で果して健全なる大國民が作れるであらうか、とは我等の上に與へられたる大なる疑問であらう。諸君が中學時代迄各經驗せられたる種々なる倫理教科書が、果して諸君を眞の人間に作りあげる權威を有つてゐたか怎うか。殊に近來は頻りと忠孝の德を說いてゐるやうであるか、徒らに聲のみ高くして實蹟の擧らざるに於ては、鳥のカア〱雀のチウ〱啼くのと何の擇ぶ所ないでは

あるまいか、忠孝は我國道德の大本であるが、空しく百萬遍唱へたからとて、立派な人間が作られないならば、倫理敎育上の失敗と云はなければならぬ。

　詮ずる所我々の精神生活に於ては、宗敎にまれ文學にまれ倫理道德にまれ、悉く吾々の飽き足らざる現代である。即ち內部と外部と平衡を失した現代である。平衡を失するといふ事は常に危險を意味するのであるが、此危き現代に、此等の內的生活を頽壞し、愈々平衡を失はしめて、累卵の如く危からしむる恐れて而して怖るべき惡制度があつて、普天の下率土の濱、戰捷の光榮赫灼たる日章旗の飜る處『遊廓』といふ醜穢極まる罪惡公認場が設立されてゐると云ふ事は、眞に驚歎すべき事實である。

（二）日露戰爭と野獸の勝利

　遊廓なるものは何をする處であるかは說明する迄もなく、唯單に人間の下劣な情慾を滿足せしむる機關たるに過ぎない人間の情慾性慾と云ふものは、之を高尙に修養したならば、卑しむべき罪惡でも墮落でもないものとなす事が出來る。それはトルストイの如きも確に認めて居るし、ショーペンハワーの如きも認めて居る、恐くは孔子も認めてゐるであらう併し吉原といふ樣な處における人間の性慾の滿足といふものは何を意味するのであらうか、ショウペンハワーの云つたやうに、性慾といふ事は我々の種族を殖す目的に於てのみ神聖である。一體人間の結婚制度といふものは、他の動物、植物になく人間にのみ存する特有の事實で、之によつて吾等の性慾は道德的色彩を帶び來るのである。貝原益軒などは日本の儒者の中でも嚴格な方であつたが、神聖な性慾は結構なものであると認めてゐる。元より性慾は罪惡ではない、結婚といふ制度によつて理想化せられるのである。然らば吉原の如き遊廓は果して種族を殖す處の性慾の滿足を求むる所であらうか、若し吉原の遊女が姙娠でもしたらそれこそ大騷ぎである。樓主も騷げば朋輩も騷ぐ、本人は元よりである。此事實は即ち種族發展てふ性慾本來の目的に背反したる情慾の爲の醜行に過ぎないといふ事を證明してゐるもので、換言すれば神聖なる人間の性慾を弄ぶものである。神は確に如此ものを嚴罰いや最も憫むべきものゝ一つであると必ず仰しやるに相違ない。何となれば我々の最も神聖とし最も愼むべきものとする本來の目的に反して、戲れ弄ぶといふ事は、實に動物だも敢てせざる處であるから、神樣の最も心を痛め給ふ筈といはなければなるまい。情慾の興奮を抑制し得ず、恣に感情の荒ぶに任するのみにても人間から野獸に墮落したもので、吾々の大に擯斥せなければならぬのである。況んや彼等の行動は種族の繁殖を否定するのだから、あらゆる生物普遍の目的に背反するもので、不自然極まる動物にすら及ばざる唾棄すべき陋劣なる行爲である。どいふ結論に到着せざるを得ない。

　一體公娼制度といふものは、女を商品として賣買させるものである。尊い人間を僅な金で自由にする事が出來るといふ

制度である。貴重なる婦人の節操を一定の料金を以て蹂躪せしむる制度である。如斯言語同斷な事が文明の今日あり得られるといふ事は、戰爭をして世界の一等國となつたといふ大國民の光榮であらうか、國民が戰爭に勝つたといふ事は單に力の强かつたといふ事に過ぎない。世界の動物で力の强いのは象の如き熊の如き、或は豹の如き何れも强いけれども、强い外に偉いところがないならば、日本の勝利は遂に象の勝利ではあるまいか、野獸の勝利に過ぎぬのではあるまいか、我我同胞は戰爭に强かつたと共に精神生活に於て、即ち內的生活に於て尊くなければならぬ。然るに我國の現狀は果してどうであるか、戰爭に於て勝つた一面に劣等極まる性慾の賣買を公許してゐるではないか、玆に於てか我日本國民は即ち象たり熊たる外的生活たり內的生活たるものと云はなければならぬ。

日本は戰爭に勝つて名譽を得たにも關らず、吾々同胞に淺ましき行ひをするものがあるために、燦然たる名譽は紛々たる醜名と變じ去るのである。外國人の眼から見たならば定めて不潔なる、定めて不道德なる國と思はれるに違ひない。外人が日本國民を好戰國民といふのは此邊の消息を語るものではあるまいか。我等は國民の品位に泥を投ずる此醜制を如何にすべきか、宜敷愼重に審議討究して此一大人道問題の解決を期しなければならぬ。

(三) 遊廓は泥棒公許場と同一論理

俗に泥棒にも三分の理があるといふ。彼等存娼論者にも一應御尤らしき理由はある。或人は佛蘭西に行つて見ると私娼密娼といふ樣なものがある。佛蘭西人は殆んど公に男女の關係が結び付けてあつて、世界中で最も不潔な國であるけれども、世界で最も文明の發達した國である。さうして流行の中心である。だから日本でも密娼位のものは、否密娼よりも進步した公娼があつてもよからうと云ふ。這麼道理が果してあらうか、假令劣等、いや優等國の人がするにしてもさういふ不正な事に與すべしといふ論理がどこにあらう。又或人は人間の性慾は何處かで滿足すべき處がなかつたならば、何處かで爆發して其爲め良家の家庭が危險であらうといふ。其麼事があるとしたならばそれと同樣に恁ういふ論理を許さなければならぬ。即ち性慾と等しき慾望は財產慾であつて、之が爲に或は發狂し或は殺人强盜、若くば自殺などが行はれる、故に財產も共同にしなければならぬ。若し果して此論理が正當ならば、論者は取りも直さず社會主義者である。

何人も財產は所有したい處である。故に其所有したい爲に泥棒するのを當然であると許し得るか、石川五右衞門は濱の眞砂は盡きても泥棒の種は盡きないと云つたが寔に名言である。併し名言である事と、正當なりといふ事は自ら全く別問題である。公娼制度は恰も財慾は止むを得ざるものなるが故に各所に泥棒公許場を設け、そこに若干の黃金を積んで彼等の掠奪を恣にせしむる制度である。かくして殺人强盜若しくば自殺者の數を減ぜしめんとするに等しき、其の愚や及ぶ

べからざる政策である。

吾々の見解を以てすれば縱しや公娼を廢止した結果私娼の增加を來すとしても、人道を無視し道德を頽壞する不法破倫なる惡制度――人身賣買、貞操賣買――泥棒公許場――に與すべからざるは論ずる迄もないと思ふ。況んや私娼が殖えたにしても、宗敎家なり道德家なり敎育家なりが十分に盡力して退治否減少せしむるのは、强ち不可能の問題ではない。吾の理想は公娼廢止を以て能事了れりとするものではない。次に來るものは私娼を減少せしむる事である。其次は社會を改良し、人類の改良を圖り、さうして吾々人類をパラダイスに住める人間の樣にする事で、これが吾等の理想の進步であつて、精神上に仕事すべき範圍はいくらもある、開拓すべき土地は澤山ある。況んや公娼を廢止したら弊害が起るといふ論者は、遊廓の附近はいつでも墮落してゐるといふ事實を何と辯明するか、寧ろ公娼を許してある附近の風俗の紊れてゐるといふ統計上の事實は、即ち公娼が風俗を紊るといふ一證左たるに止まらず、私娼の弊より免れんとするといふ論者の立脚地に爆彈を投ずるもので、彼等の撞着を語つて居るものではないか。又或者は花柳病の蔓延を防ぐ事が出來るといふけれども吉原に行く人は大抵淋毒乃至瘡毒に罹つてゐるではないか、之れ今日の檢梅の無効なる反證で、梅毒檢査があるから安全だと思つてゐるのは大間違である。殊に吉原の如き廻し客を取るに至つては尙更危險である事は說明する必要もない。或者は公娼によつて私娼の數を減ずるといふが、現に此頃吉原の衰微する所以は怎うであるか、私娼が殖えてゐるではないか、私はどうも迂遠にして花柳界の事は餘り知らぬが、私の近所にも藝妓屋といふものが澤山あつて、藝妓の數が二百近くもあるといふ事である。然るに一晩に殆んど一度も三味線の音のしない晩がある、それでどうして藝妓は喰つて行けるのかといふ事を聞いたが、今の藝妓は三味線で食ふのではない、外に食ふ道があるさうである。それは即ち私娼ださうである。吉原の如き公娼があつても日本には私娼が段段殖えて、さうして今日は藝妓といふ樣なものも、名は藝妓であるけれども其實は娼妓と同じ行動をしてゐるのである。然らば吉原の如き公娼があるから私娼は減ずるといふ事は面のあたり、全く論理上間違ひであるといふ事が斷言せられる。其麽議論は今更ロヂックの一つも習つたものはするものでない。

《四》 廢娼は內的生活向上の第一義也

要するに今日公娼といふものがなければならぬならば、今日の宗敎道德の無能を示すものである。宗敎は吾々の精神生活を司る一の機關である、然るに宗敎が猶青年の精神を統治する事が出來ぬならば宗敎存在の意義を怪しまねばならぬ。私は敎育に從事してゐるものであるが、吾々敎育家が公娼を必要とする樣な子弟を作るならば敎育の効力はないといはねばならぬ。從つて會堂も潰すべし、學校も廢すべしである。其他道德書倫理書も元より然りである。今日は法律萬能の世

の如く云つてゐるが、法律の力で公娼を廢したが爲に私娼が殖え、之を取締る事が出來ぬならば法律萬能は得手勝手なものである。法律が其麽に偉いものであるならば、私娼が出來たらどし〳〵征伐して人間を法律の力に依つて善良に導く事が出來得られる譯である。斯樣に宗教、道德、法律と武器は揃つてゐる。これらの武器を擁してなほ私娼が殖える等と杞憂する者は卑怯者と云ふの外はない。自ら力を斯くの如き方面に加へる事を知らない愚劣な人間である。眞に社會人道を愛し我々同胞を愛するならば、法律の力によつて、宗教道德の力によつて、警察と我々と協力し賢明なる諸君が働かれたら、私娼の弊を防ぐ事は必ずしも至難の事ではない。

或人は結婚をして夫婦生活をするのも、一圓五十錢か乃至唯の五十錢出して一晩限りの――時間的に云へば――夫婦生活をするのも、意味は同じ事であるといふ事を云つてをる。是は即ち公娼といふものがあるからで、此公娼を禁ずると貞操の重んずべきを悟り、婦人自らも自重の念が起つて、人類が高等に進んで行くといふ事を私は信ずるのである。吾等は昔から一等國であつた國が幾らも衰頽してゐる歷史を看過してはならぬ。近くは西班牙の如き、或は瑞典の如き、和蘭の如き、確に昔は一等國であつた。遠い所では埃及の如き洵に偉い國であつた、が今は果敢なき夢の跡となつて了つた。日本は今日一等國になつたといつた處で是は戰爭の力である。若し軍艦が二艘か三艘か海に沈んだならば我々は二等にも三等にも下るのである。或は又若し三年か四年日本に大洪水でもあつて米が穫れなかつたならば、忽ち二等にも三等にも下るであらう。處が內部の充實、精神上の價値であつたならば肉體は斃きてもどういふ事があつても、最後の勝利を得られるのである。

故に私は國民が品位といふものを重んずる事を忘れたならば、其國は何時かの時を以て衰頽する、何時かは外國の侮りを受ける。何時かは一等國といふ名前を失ふて仕舞ふ事もあると信じてゐる。外國人が日本を一等國といふのは全く戰爭の結果である。戰爭のお蔭である。戰爭の外には何も我々を評價する標準はなからうと思ふ。若し戰爭の外に精神生活が高尚であつたならば、眞に我々は世界の一等國である。私は戰爭に於て勝つたよりも吉原の如き人道問題に於て大勝利を得る事は一等以上の國になる所以である事を叫びたい。

我國民は國を愛するといふ事に就ては確に他に讓らないのであるが、眞に國を愛するならば國民のデイグニチイ、人道を重じなければならぬ。眞に國を愛する道は單に兵器を執つて戰場に出づるものばかりではない。無形な働きを一方に於てはやらなければならぬ。國民の品位を高めなければならぬ國民の精神生活を高めなければならぬ。之が眞の愛國者であつて、公娼制度と闘ふ戰士は即ち金鵄勳章以上の忠勇なる國民といふべく、此制度の存在する間は、內容充實內的生活の向上は到底希求すべからずである。

輿論の聲漸く高まる（二）

我廓清會が京都に支部を設くるや、同地に於ける最も有力なる新聞たる京都日の出新聞は「公娼廢止の聲」と題し連日六日に亘りて最も詳細に我黨の主張を江湖に紹介せり。本誌旣に掲載の分と多少重複するの恐れなきにあらざるも、同紙記者其人の意見の新たに加へられたるも亦少なからざれば、其全文を茲に轉載して、以て如何に同紙が多大の援助を本會に與へられしかを會員諸氏に報告し併せて同紙に感謝の意を表す。

公娼廢止の聲

京都日出新聞

（第一）

公娼廢止問題は今や單に一部宗教家の理想として唱へて居る遠い所の囁きではなく、其の道の學者、教育家、政治家偖ては婦人先覺者に依つて具體的に研究調査を遂げらるゝやうになり、講演會に出版物に之が救濟の方法を宣傳し、或は議會公衙に廢止の陳情をなす等其の運動は次第に實際的に近づいて來た。之と同時に廢娼を絶叫する輿論の聲も益々高まつて來たやうである。殊に大隈伯を顧問とし、島田代議士を會長とせる東京の廓清會が萬國廢娼同盟會と氣脈を通じて全國に一大活動を試み、曩に大阪南地火災後に於ける遊廓再建問題に就て卒先其不可を唱道し、輿論の基礎を作るに努めトウ／＼當局をして再興不許可の一大英斷に出でしめたなどは、最も注目に値ひするものがある。一昨夜の當市青年會館に於ける大演說會も亦豫想以上の成効で集まれる多くの青年の間に堅實なる志操を吹き込み衷心から聲を上げて廢娼に贊成するの氣風を養ひ得たることは寔に喜ぶべき事である。以下當夜に於ける各辯士の演說並に廓清會に關係ある諸名士の意見を綜合して、是非共公娼は廢止すべきものであると云ふ彼れ等正義の聲を紹介して見たいと思ふ。

▲憐れむべき罹災者

公娼は醜業婦にあらず罹災者なりと前提し、此罹災者を救へと絶叫して居るのは廓清會常務理事益富政助氏である。氏が此運動に手を染むるやうになつたのは、曾て娼妓及び娼妓同樣の境遇にあつた數十人の婦人を親しく自分の手にかけて救濟し、眞底から彼れ等の憐れむべく救ふべきものであるのを覺つたのが動機であると云ふことである。氏は曰ふ、彼等娼妓なるものは恰も水害に罹つたとか火災に遭つたとか云ふ罹災者の其れの如く、一種不時の災難に出會つたものである。彼等の多くは自動的にあの境遇にあるよりも、寧ろより多く他動的にあの運命に陷つたものである。即ち罹災者であるか

ら憎むべきものに非ずして救ふべきものである。排斥すべきものに非ずして助力すべきものである。言ふまでもなく彼等卑しむべき娼妓なるものも、生れながらにして醜業婦たるべく、其の體を親から授かつた譯ではないのである。小さな可愛い口に母の乳房を啣んでスヤ〳〵と温かい懐に眠つてゐた時代の彼等の顔には、他の子女のそれと同じく天の使の清い姿を宿して居たのである。段々生長して漸く歩行が出來る頃の彼等は矢張り無邪氣にして可愛い赤兒であつた。五歳六歳七歳八歳頃の彼等は同じく天眞爛熳たる子供であつた。嗚呼若し彼等をして諸君と同様幸福なる家に生れしめ、お下げにリボン、美くしい袴を着けさせて小學校に送り、高い月謝を拂ひ、高等女學校に通はして貰つて多くの先生から身の爲めになる種々の教育を授かるやうな結構な境遇に置かしめたならば、何を苦んでか世にも卑しむべき娼妓にまで身を落しめやうぞ、黒鐵の檻の中に飼はれたる動物園の獣の如き拘束を受け、人間と生れながら一種異りたる種族でもあるやうに、甚だしい輕蔑を受け、下等な生活を續けて彼の暗黒なる社會に可惜花の盛りの娘時代を過すと云ふことは、到底も面白半分に出來る所のものでない。諸君試みに彼等の土の如き脣を見給へ、其痩せ衰へて蒼醒めた顔に世の風波と憂き苦役に勞れ果てた憔悴の色を刻んだ有様を見給へ、眼は窪み姿は寠れ爛漫と咲きも揃はん盛りの花は何事ぞ形容枯槁眞に此の世の人とも思はれざる迄に萎み果てた有様を見給へ。而して暮れ行く秋の夕べ煩悶苦惱しつゝ幸薄き己が身の行末を案じ悲しむ彼等の小さき胸の中を想ひ遣り給へ、キリストが『夫れ天の父は其の日を善き者にも惡しき者にも照らし給ふ』と宣まふて限なき愛を示し給ふた其日、禽獣蟲魚草木に至るまでも均しく其恩惠に與ることが出來る其の太陽の光線にさへも思ふやうに觸るゝことが出來ない彼等の境遇は、所謂活きながらの地獄に落されたもので世に悲惨な遇境があると云つても是程の悲惨なものは又とないのである。彼等の境遇は彼の住吉物語にある『心から浮きたる船に乗り初めて一と日も波に濡れぬ日はなき』との歌の文句に盡きて居る。自分の救濟した澤山の娼妓の中に實に恁んなのがある。

女は博多の生れで浪さんと云つた非常に内氣な柔順な質であつた。其の境遇の果敢なきを悲しめる結果、終に精神に異状を來し哀れや物の前後も分らぬ氣狂となつて了つたのである。或夕べ救濟所の窓からさし入る淡い月影を眺めながら青ざめた額に亂れかゝつた髪を掻いやらうともせず、『窓を引き開け眺むれば、モーシ〳〵お月さん、お故郷に御座んす母さんは、無事か知らして下さんせ』と節つけて悲しげに歌ふ、暫くすると又『情けなやホンに此の身は籠の鳥せめて空飛ぶ鳥ならば、近い博多に巣をかけて、憧がれて泣く聲聞かせたい、アレいとしい母さんに……』と歌ふ、其れかと思ふと又『儘になるなら花月の格子、あけて輝く大連で、自由廢業、死なうと生きやうとわし一人、四百餘人の娼妓の爲めとなる』と引續き〳〵歌ひ出すのである。側に依つて浪さんが誰がそんな面白い歌を敎へたのと聞けば

ゲラ〳〵と狂人の笑を漏し『誰も敎へないがお腹の虫が敎へたのよ……』と後はポカンとして氣拔け同樣である。

嗚呼何んぞ其聲の悲愴にして其調の凄慘なる。傍に居た吾吾は思はず袖を濡らさゞるを得なかつたのである。斯くの如きは決して彼女一人のみの悲嘆の聲ではない。實に天下大多數の娼妓の胸中を代表したものではあるまいか。即ち彼等は決して自ら好んで苦界に沈んで居る譯ではない。彼等の境遇は讀で字の如く苦界である、怎うして此苦界より救はるゝことが出來やうか、怎うして此苦境を脱することが出來やうかとは日夜彼等の小さき胸を痛めて居る問題である。啼いて血を吐く時鳥切なる思ひと煩らひに大事の生命を縮めて居るのである、嗚呼萬斛の血涙に咽ぶ彼等の哀聲を諸君は何と聞き給ふのであるか。（三月四日所載）

（第二）

▲道德上の觀察

公娼廢止の理由は種々あるが其の根本は人倫の道に悖つた罪惡を公許すべきものでないと云ふ道德上の觀察から來て居るのは言ふまでもない。此點に關し益富政助氏は彼等は又誤まられたる道德上の罹災者なりと前提して恁う言つて居た。誤られたる道德思想とは何であるか、親の爲め、兄弟の爲め、又は一家の爲めであるならば、譬へ操を切賣しても敢て差支へないのみか却つて子として盡すべき道である。善い事である感心な事であると云ふ即ち其れである。彼等は此誤りたる舊思想の捕虜となつた犧牲者である。此似而非道德が原となり、如何に憐れなる多くの婦女子をして終生拭ふべからざる汚辱を蒙らしめて居るか、又如何に多くの人の親をして大なる罪を犯さしめて居るか分らない。自己の貪慾の爲めに自己の生活を全ふせんが爲めに己れの子を犧牲とするの惡德たることは勿論、假令如何なる塲合であらうとも我子をして最も恥づべき劣等の稼業を營ましむるが如きは人の親として決して爲すべきことにあらず。操の切賣をなし牛馬にも劣つた行爲をなして親兄弟の爲め又は一家の爲め盡さうと云ふのは決して婦人の取るべき道でない、必ずや他に何等かの正當の職業を求むべきものである。操を賣るの罪人となつて孝行の德を買はんとする者は恰も人の物を盜んで親に甘い物を食はせやうとするのと一般で、到底功罪相償ふことの出來ない問題である。其故に吾々は娼妓となつて後に受くべき運命の悲慘なる事情や、又二度と生るゝことの出來ない尊とい生涯を人でなしの娼賣に身を落し、凡ゆる色飢餓の嬲り者となつて相果つることの如何に生甲斐もない淺間しい事であるかを篤と得心の行くやう說き聞かせねばならぬ。又國家は其の敎育に於て小學校時代より人倫道德の何物なるかを敎へ、忠君愛國の信念を養ふべきことを說き、今次政府は特に宗敎の權威を認め之を國民敎育の上に推し及ばさんことを欲し、所謂三敎會同なるものを催ほすに至つた。而して會同宗敎家は決議して曰く、社會の風紀を維持し國民道德の振興を圖ることに努

力すべしと、嗚呼是れ寔とに結構なことである。爲政當局者が宗教の忽がせにすべからざることを認め、之に充分の尊敬を拂つて今度の計畫を立て、宗教家が其意の存する所を體して這回の決議をなし、政治と宗教の接近結合が玆に一段の進境を開いたのは何より以て喜ばしい次第である。而も如何せん玆に悲しむべき公娼制度なるものがあつて政府の名に依つて公然賣淫をなし、國家の名によりて道德を紊亂して居るのである。宗教教育と全く矛盾し、背馳した行爲が認識せられて國民の一營業となつて居るのである。思ふに道德宗教教育の三者と根柢に於て相容るべからざる此公娼制度なるものが存置せられて居る以上は、幾度三教會同を催ほして社會風紀の維持國民道德の振興を決議したればとて我等は其効果を疑はざるを得ない。風教の頽廢を嘆き青年學生の進路を誨へんが爲めに內部や文部の當局が百千回の訓示を發した所で、一方に於て之に撞着したる公娼制度を公認して置く間は道德なるものは其權威を失なひ、從つて何の効果もあるまいと思ふ。仁義道德を敎へ、忠君愛國を說く所の國家が、人生の根柢たる男女の大倫を等閑視し淫賣者を公認し之をおッ開いて國民墮落の機關を默許するなどは、如何にしても矛盾撞着の甚だしいものであつて、若し夫れ國民道德の大本を維持し、國家風教の振作を企圖せんと欲せば飽くまでも公娼制度の破壞を絕叫せねばならぬのである。（三月五日所載）

（第三）

▲衛生上の觀察（上）

公娼が道德上倫理上の點から見て之を認容することの出來ない罪惡であるとしても、衛生上風俗上から見て實際社會の爲めに利益であると云ふ證據があるならば社會公衆の爲め之が存置を忍ばねばならぬこととなるのである。即ち公娼制度なるものが普通世間で云ふ如く社會の爲めに花柳病（黴病梅毒）を豫防するの効能があるや否や、病毒撲滅の方法として現時公娼に對して行つて居る檢黴制度なるものが實際有効なるものなりや否や玆が問題の要點なのである。所が最近專門學者研究の結果檢黴制度は花柳病の蔓延を防ぐ爲めには寔に不安心な方法であつて、事實に於て無効と云ふ結論になつて居るのである。最も醫學の進步した獨逸に於てさへ檢黴制度に依つて花柳病を豫防することが出來ず、有名な學者のブラシコー氏及びブロッホ氏なども結局公娼制度を廢止するより外に途がないと斷言して居るのである。此點に關し二日夜青年會館に於て京都醫科大學敎授醫學博士松浦有志太郎氏が『衛生上娼婦を必要とするや』と題して演說した所も全く一致して居るので、博士は多年專門の醫學上から研究した結果、花柳病の撲滅＝少なくとも蔓延を防ぐ＝を期せんと欲せば公娼を全廢するか、若し存置して居つても全國の男子が悉く之れに接近せないやうに爲ねばいかぬと結論したのである

る。博士は說て曰ふ、現今の檢黴若くは驅黴制度なるものは露骨に云へば單に外觀上の形式に過ぎないもので、謂はゞホンの氣休めである。之に依つて驅黴の實を擧げんとするのは恰かも太平洋へ一本の昇汞水を流して全體の水を消毒せんとするのと一般である。要するに現今の醫學の智識現今の國家の經濟力では全く不可能事に屬するのである。元來婦人の生殖器程微妙複雜な構造のものはなく、從つて此中に潛伏して居る花柳病の黴菌は、如何に精巧の檢黴方法を行つても悉く之れを除き去ることは出來ないのである。痳疾であれ黴毒であれ其の黴菌が一旦婦人の生殖器へ喰ひ込んだ限りは、治療上其の數を少くすることは出來るが、之を根絕せしむることは出來ない。故に一旦病毒に犯された娼妓は入院の上之に治療を加へ假令其の場は癒つたやうに見へても、實際是れならば大丈夫である、最早や黴菌は根絕して居ると云ふことの保險が付け得らるゝまでには少くとも三四年の試驗期間を經ねばならぬ。一回の病氣に此通りであるから數度之に犯されたことのある娼妓などは、廢物と見傚して最早再び客に接せしめず一生病院で飼殺しにするにより外に安全な豫防法はないのである。娼妓の廢物を一生養つてやる程國家の經濟力は豐かでないから、結局之は不可能と云ふことになるので、不完全不安心と知りつゝ其時限りの檢黴法に滿足せねばならぬことゝなるのである。論より證據最近の壯丁檢査で各府縣別に花柳病患者の步合を調べた所に依ると、壯丁千人の中德島縣が四十七人東京大阪二府が各三十二人奈良縣が三十四人神奈川兵庫三重の諸縣が二十六人で是等は全國中の多い部分に當り最も少ないのは和歌山縣の十二人群馬縣の十五人と云ふことになつて居る、即ち知るべし、大都會若くは港を控へた地方で遊廓多く公娼數の多い所程花柳病患者の感染步合が多く、全く遊廓制度の設けてない群馬縣と和歌山縣とが飛び離れて少ないと云ふ結果を示して居る事を、公娼を唯一無二の黴毒豫防機關の如く心得遊廓の區域を限つて花柳病の防波堤でも築いてあるものの如くに心得て居る輩も流石に此の實例を見ては何とも言ふことは出來まい。結局衞生上より公娼を必要とするやと云ふ懸案に對しては不必要なりと答へざるを得ないこととなるのである。（三月六日所載）

△京都日の出新聞記者山崎英泉氏よりの來狀

拜復、過般御來洛の際は失禮仕候。其後御歸京の砌、態〻御來車を辱うし候處不在の爲め却て失禮を重ね候樣の次第、不惡御宥恕被下度候。「公娼廢止の聲」なる記事は、單に先輩各位の聲を紙上に紹介したるまでに過ぎざるに、意外にも多大の御賛詞を蒙り、殊に新紙大部御購求の榮を擔ひ候段、小生こそ望外の光榮にて幾重にも感謝措かざる次第に有之候。京都に支部の出來たるは寔に結構なる事にて、斯くして全國各地相應じて輿論を高め候は、廢娼の目的を貫徹する上において少からざる効力ある事と相信じ、其發會を祝すると共に今後の御活動を祈りて不止、小生も先輩諸賢の驥尾に附して不及ながら一臂の筆を揮ひ度存念に有之候。就ては、今後我京都及び附近における廢娼問題に關する一般の出來事、並に學者、府縣當局者の意見等、其他遊廓方面に於ける實際の調査事項等に關し、折々貴會の誌上に通信致し度き考へに御座候間、幸に御許容被下候へば次號よりにても通信仕るべく候。尙今回の事を機會として今後一層の御懇意を相願ひ申上度候、以上。

三月十二日　　京都日出新聞社　山崎英泉

益富政助殿

惡風俗

時事新報所載

我國の文明は年を逐うて面目を改めつゝありと雖も、一般の風俗習慣に於て西洋諸國と大に趣きを異にするのみならず外人に對し恥づ可き缺點の尙ほ少なからざる中にも、彼の藝妓なるものが社交上に必要缺く可からざる媒介物と爲り、如何なる場所にも出入し席上に周旋する一事の如き、驚き入りたる風習なるに、因襲の久しき日本人自らは殆ど之を怪む者なしと云ふ、我輩の常に不平とする所なり。而して此弊風が近年に及んでます／＼甚だしきを加ふるは、全國を通じて藝妓の數年々著しく增加し、然も其增加率が娼妓の增加率よりも遙に高き一事を以て之を知る可し。

例へば去る四十二年全國に於ける娼妓の總數は四萬七千九百一人なりしが、四十三年には四萬八千七百六十九人と爲り、一分八厘の增加に止まるに反し、藝妓は四十二年三萬四千九百六十一人、四十三年三萬七千三十八人、即ち僅に一年間に於て五分九厘以上の增加を示せり、又單に東京府下のみの藝妓數を見も、三十四年には市部三千百廿二人、郡部百五十二人、合計三千二百七十四人なりしに、十年後の四十三年には市部三千八百卅七人、郡部三百九十三人、合計四千二百三十人に達し、千人に近き增加を來せるは、此十年間に新藝妓町が場末の地に三箇所まで出來たる事實と相俟て、首都に於ける藝妓の繁昌を示すものと云ふ可し。

藝妓と云へば、單に歌舞音曲を賣るものゝ如くなれども、其實は殆ど皆醜業婦と云ふも可なり。或は其中には特に一人の顧客を所謂旦那と仰ぐものあるよしなれども、是れ亦一種の妾奉公にして、之を目して矢張り醜業と云はざるを得ず、左れば現在の所藝妓と娼妓との間には實際に差別なきが如し、左れば現在の如く交際と云へば必ず藝妓の之に伴ふの風に何時までも改めざるときは、其結果として社交界はます／＼不潔不純を極むるに至る可し。更に各人の業務に及ぼす影響を見るに、多少込入りたる用向は酒席に於てし、酒席には必ず藝妓を招く爲め、勢ひ用談と冗談と混同して或は不得要領に終り、或は立派なる道理も情實に枉げらるゝが如き始末に立至ること多し。我國人の業務が兎角ビジネスライキならずして、駄雜しなき風ある其一原因も、此邊に存するは疑を容れざる所なり。

又其家庭に及ぼす弊害の多々なるは、今更ら申すまでもなき所なれど、爰に看過す可からざるは中流以上の人々にして藝妓上りのものを內に入れて妻女と爲すの風今尙ほ絕えず、然も斯る種類の婦人をば他の良家の子女の前に出して憚らざるものあること是れなり。是等は自己の無耻を表白する一方に、正しく良家の子女を侮辱するの甚だしきものと云はざる可からず。左れば我輩の希望は今日中流以上の婦人たるものは、假令ひ其の夫たり父たるものゝ親友の妻女と雖も、其素性が醜業婦上りなる場合には斷じて交際を結ばざることゝし、其實行方法としては是等身分ある婦人連が、其邊に就て固き同盟を結ぶも一工風なる可し、畢竟婦人たるものゝ品位を自衞する所以なれば、毫も憚るの要ある可からず。無遠慮の嫌を顧みず聊か苦言を呈するものなり。

雜誌の雜誌



○宗教界

三教會同に就ての開書

日本基督教會同盟は今回の三教會同に就き左の如き開書を發した。

一、今回本多庸一、井深梶之助、宮川經輝、元田作之進、千葉勇五郎、石川喜三郎、本城昌平の七氏は、内務大臣より基督教代表者として、去る二月二十五日東京華族會館に於て催ほされたる神佛耶三教會同に招待せられ、之に參列せり。

一、當日原内務大臣は一場の挨拶をなし從來三教者が風教道徳の爲めに貢献せしところ多大なるを認識し、今後益々之が爲めに盡瘁せんことを希望せられたり。

一、翌二十六日三教代表者の主催にて、更に華族會館に協議會を開き、三教より提出せる案件に基づき、滿場一致を以て左の決議案を通過せり。

吾等は今回三教者會同を催ほしたる政府當局者の意思は、宗教本來の權威を尊重し、國民道徳の振興、社會風教の改善の爲めに、政治、宗教、教育の三者各々其の分界を守り、同時に互に相協力し、以て 皇運を扶翼し時勢の進運を資けんとするに在ることを認む。是れ吾等宗教家從來の主張と相合致するものなるが故に、吾等は其意を諒とし、將來益々各自信仰の本義に立ち、奮勵努力國民教化の大任を完うせむことを期し、同時に政府當局者も亦誠心鋭意此精神の貫徹に努められんことを望み左の決議をなす。

一、吾等は各々其教義を發揮し、皇運を扶翼し、益々國民道徳の振興を圖らんことを期す。

二、吾等は當局者か宗教を尊敬し、政治、宗教、及教育の間を融和し、國運の伸張に資せられんことを望む。

一、右決議の精神に基づき、吾等基督信徒は、他宗に對して禮儀を重んずると同時に、益々自己の信仰の本義に立つ、其の特長を發揮し、傳道事業に奮勵し、現代人心の要求に應じて風教道徳の維持作興に努め、以て皇運を扶翼し、國民教化の大任を完うせんことを期せざる可からず。

一、更に又右決議文に明言せられたる如く、政治、宗教、及び教育の三者は、互に協力呼應して我邦精神界の向上進歩を期すべきものなるが故に、此際吾等は益々其相互の關係を明らかにし、以て宗教本來の權威に立ち、其の使命を完うせざる可らず。

一、今や我邦精神界の機運は益々基督信徒の奮發興起を促がすものあり。此時に當り、吾等は進んで大いに積極的傳道を試み、神の國の擴張に努力せんことを切望す。翼くは天父の恩寵吾等の上に豐

かならんことを。

明治四十五年三月

日本基督敎會同盟

床次氏の考の心理的解剖

床次内務次官の親友某氏は、此度の三教會同問題に關する發意者たる床次氏の考の心理的解剖をなして左の如く話された。

▲床次内務次官は外國に行くズット前から宗敎に對して興味を有し、只だ之を机の上で弄んで居るのみならず、之を實行に現はして居たことは事實である。彼は禪味があるとか、悟を開いて居るとか、世間で取沙汰するのは、要するに之が爲めであらう。余は是れまで友人として議論を戰はしたことも度々あるので、其の宗敎に對する意見も解つて居た。氏は自ら宗敎家であつたとは云はないが、政治家として宗敎の何たるを解し、之を日常生活にも應用しやうと云ふ考への人であつた。それで外國から歸るや、歐米小觀と題する書を公にし、偉大なる國民には宗敎的信念が其の基礎となつて居ることを遠慮なく書いた。前から然う云ふ考へを有して居た氏は、實際歐米の社會を見て默つて居ることが出來なくなつたのである。是迄政治家又は政府の官吏などの土産話とは趣を異にし、他の人の云へないところを言つたのである。我々に取つては有り觸れた事柄であるが、是れは日本の此う云ふ人たちの間に甚だ缺乏したところであるから敬意を拂つて讀んだことである。

▲新聞紙の傳ふるところに據れば、前内閣の時地方官會議の席上に於ける某大臣の訓示中敬神の念を鼓吹し、祖先を尊敬することを奬勵したやうである。此訓示を與へた大臣方はよもや斯かる偏狂な考へではなかつたであらうが、之が津々浦々に傳はつた後の有樣は實に困つたことになつて居る例も少くない。神社佛閣の禮拜とか祖先の禮拜とか云ふ風なことになり、新思想の輸入と破壞思想の關係など敎育者の誤解は隨分甚だしいものがあつたらしい。そこで是れは國内の問題であるのみならず、外國との關係を喚び起し、日本は祖先禮拜などと云ふ幼稚な考へを復興し、また排外鎖國主義になつたではなからうかと云ふ杞憂を懷き、我國の大家に訴へて來た向きも數々あると云ふ次第になつた。前内閣は外のことは成功したが、此の一事は失敗したとまで云ふものもあるに至つたのである。

▲而して非常な力を用ゐて鎭壓した危險思想は全く其火が消えて了つたか、或は青年などの心の奥にはまだ何か不健全なる思想が殘つて居りませぬかといふに、まだ少しも枕を高うすることは出來ない有樣である。其所へ持つて來て昨年末から支那の革命が突發して、君主、共和の兩主義の爭ひとなり、國民新聞其の他に於ては是れは由々しい近火だと云はぬ斗りな文章が掲げられるに至つた。此のやうな文章は先輩の杞憂から來たものではなからうかとも推測するものがある次第である。其の心配も善意には相違ないが、あまりに近眼的である。丁諧的である。大河の決潰する隻手の能く支ふるところにあらずして、四百餘州は滔々として民主政治を實施した。是は隣國に取つては當然の出來事かも知らぬ。是迄とて唐とか宋とか明とか淸とか云ふ異つた王朝が

幾つも起つては倒れた實例に徵しても不思議はない。それを特種の歷史を有する我國の事に比べて彼是とケチな了見よりして他人の疝氣を頭痛に病むで我が國體と一大利害關係があるかの如くに騷ぐものも出ると云ふ情けない有樣になつた▲然う云ふ思想界の有樣で心ある政治家は之を等閑に附することは出來ぬ。特に此の點については一見識ある床次氏が默して居ることの出來なくなつたのは當然である。そこで今回の如き一視同仁の考へから三教者を會同するに至つた。或は新聞紙などの攻擊によつて鼠色のものとなつたと云ふものもあるが、友人として當初から氏の考を知つて知るものは誰でも然う信じて居るものはない。今まで度外にして居た政治家が進んで宗教家の功績を認識し、之に敬意を拂ひ國民道德の振興に共々に盡さんとする希望を表明した事は決して何でもないことではない。世間には會同を合同と誤解したり、床次氏の心事を邪推したり非難したりするものもある。元來此の會合は宗教家の立場から見れば、あまり多くの待ち設けを以て見るべきものではないが、さりとて此の會同を何も拒むべき理由はない。之に出席して後に然りは然りとし、否は否と云ふべきである。且つ政府當局者が認識することは歡迎すべきである。然るに神佛教者の中には之を以て一大事となして會合を拒絕せんとし、新聞紙などをも用ゐて、此の擧を妨げんとする向きがあるのは、つまり其人方は最早宗教家の範圍を脫して政治家となつたものである。そんな俗化したる狹い考へでは、衆生を濟度することは到底望まれない。此の點については基督教側の重立ちや其の他にも始より堂々たる態度を執られた方々に對しては敬意を表して置くのである。(福音新報)

床次氏との會談

衆議院議員　齋藤宇一郎

目下我日本國の問題となつて居る宗教の問題に就きましては朝日新聞がよく記事を集めて載せて居ります。勿論諸君も注意を拂つて御いでゞせう。私も日夜考へて居る一人であります。此の問題は十二月の末から今年一月中が非常にやかましかつた十九日の朝東京へ參つて新聞を見ると、餘り世間がやかましい爲めに、內務次官は引込だ樣子である。私は床次君は懇意でありますから直ぐと訪問致して、折角言出した事を中止する樣な事はあるまい、信ずる所あつて發表されたのだから新聞などの彼此かまはないではないかと申した所が、同君はそんな引込思案ではない愼重に考へて居るのであると申されました。私もどうか此の問題に就きて誤れる所は矯正し、よき所は之を助けたいと云ふ考を持つて居つた故に、基督信者(代議士)の者十人程と申合せて一度床次君を御招き致して此の問題を研究したいと相談しました模樣の概略は要するに、床次君は熱心なる禪學の研究者である。その宗教家から見て今日の日本の有樣では如何ともしかたがないと考へたのが初めであつて、一昨年歐米を視察して一冊の書物を著はした。その書物を私も貰つて讀んだのである。その時他日宗教上に就て必ず自身の意見を發表すると報告されてありましたが丁度その當時の考をすゝめて來たので、決して行政上の利用問題などではない又この問題を發表する前に、後立となつて居らるゝ元老の方の意見を確めて見たが、元老達は皆床次君に同意する意を發表されたさうであります。扨現時社會の狀態を見るに、形式上は進步して居る樣なれど、裏面は不絕退步し、破壞しつゝある。彼の甲武線の電車の中てさへも男女の區別せねばならぬ樣にまで墮落して居る。然し教育家に云はすると、この青年男女を皆勅語に依つて教育すると云ひます。これさへあれば何もいらぬといふ、斯の心を以て何十年間教育して居つても青年男女を右の有樣に

教育したのでは仕方がない。

大浦君が外國に行かれた時、日本では忠孝を敎へて居ると云ふが、商人の不信用には實に驚くと申された時、大浦君はまで幼稚だからと答へられたそうである。この時までに勅語に因て敎育を致したのは二十有餘年である、決して幼稚ではありません。

尙床次君の話に人間の向上と云ふ者は、人の心が誠實となり、それが發揮して忠となり、孝となりすべての者に及ぶ筈である。此の如くなるには宗教が必要で、宗教心を養成することが急務である、といつて宗教の何れを善しとするかは見出せないかもしれないが、精神上に改革、向上の變化がなければ、人民を進歩せしむることは出來ぬ故、どこまでも之を主義として行くといふ話もありました。（婦人新報）

〇三教會同問題

床次氏の提案の長所と弱點

同志社敎授 神學博士　ギユーリツキ

床次氏の提案の長所は現代の缺陷を適確に認めたところにある。そしてそれに處するに斷乎たる決心を以て建設的方法を探らんとする所にある。

最も喜ばしい事は、氏がこの益々發展しつゝある國民に、確固たる精神的根底を据えんとするには、物質的興味や經濟的利便のみでは不十分だと云ふことを認めたことである、『人はパンのみにて生くるものにあらず』人間の心情の深奧たる要求は眞理と正義である。

併しながら氏が宗教の援助によつて解決せんとする問題の甚だ空漠たる事は、これその提案の弱點の一つである。恐らくは國民的疾患及び其の治療法を宗教の手に委するのは、氏の實際的智慮の致す所であると信ずるが、それは何れにしても提案には只一般的な、そして抽象的な言辭をもつて、興業上に於ける資本と勞働との關係、及び農業上に於ける土地所有者と小作人との關係と云つたやうなことばかりしか云つて居ない。（六合雑誌）

親和の曙光

番町敎會牧師　網島佳吉

世間ではこれを以て政府が宗教を利用するのだとか三教を合同するのだとか云ふやうに誤解して居るものが多いやうですが、政治家が宗教を利用したり合同するといふやうな事は實際に於て出來ないことであります。只床次氏の考へは國家と云ふ立場からして宗教家は宗教家としての眞の本分を盡して貰ひたい、さうすれば必然的に國家の利益となるといふので、利用と云へば云へないことはないが、惡るい意味を含んだものではなく寧ろ宗教の力によつて國家の進運を計ろうといふのであろうと思ひます。

この會合は神佛基三教の間に蟠つて居た、誤解を解いて意志の疏通を計ることが出來ると思ふのです、殊に今までは社會の一部から繼兒扱ひにされて居た基督教と他の宗教との間に喜ぶべき親和を見る事が出來て、將來各宗互に相助けて行く事が出來ると思ひます。

誤解と共同事業

明治學院總理　井深梶之助

床次氏の趣意書に『宗教と國家との結合を計り、宗教をして更に權風あらしめ』云々と云ふやうな文字があるところからこれは必竟國教を立てる計畫であると誤解し、又甚だしきに至つては「三教者のイ「同」とあるを神佛耶三教の合同と早呑込をした連中もあるらしい。がこれは申すまでもなく全々誤解である。

又或論者の云ふが如く三宗教家をして共同の事業をなさしむると云ふ事は極めて困難であるのみならず、極めて拙策であると云はねばならぬが、自分の了解するところでは立案者に於ても決してそんな無常識な考はないやうである。

又三教者會合の如きは一時の政略問題でなく我が國民の道德上及宗教上の現狀に於て何うしても解決をつけねばなら

ぬ大問題であつて、各宗協力は可能の事と思ふ。

官憲と宗教との握手

靈南坂教會
牧師　小崎弘道

元來宗教と政治は雙方とも大なもので昔は政教の事を車の兩輪、鳥の兩翼とも云つた位で今日もなほこれを夫婦の關係にあると云ひ得る。何故なれば、この二つがあつて始めて國家が立ち、一身が立つので、決して政治ばかりや、宗教ばかりでは立つて行かないからである。

兎に角今回の三教會同なるものは國家の上より考へて見ても一の進歩として喜ばなければならぬし、宗教の上から考へても大に慶賀しなければならない。何故なれば兎角我が國の教育ある階級の人々は宗教を度外視する傾向があるのが今回の計畫に依りて彼等に宗教問題に多少の興味を惹起するに至るは明白であつて、爲に國民の宗教心を幾分か刺戟し萌芽せしむるに至るは疑ふべからざる事である。

宗教そのものに對する利害

組合教會
牧師　武本喜代藏

宗教そのものに對する利害については寧ろ基督教に利ありと云ふべきであろう、基督徒は少數なれど比較的今日の事情に通じ、歐米の新智識を含味し得る能力を有して居る、だから今後自由の舞台に活動せしめたならば隨分花々しい効果を見る事がないとも云へない。

國民の幸福

救世軍
大佐補　山室軍平

第一國民の信念を鼓舞奬勵する上に益あることゝ思ふ。

一面に於ては國民の宗教に對する一層の注意を喚起し、傳道上に便宜を得べきと同時に地方に於ては宗教者が一層世の尊信を受くるに足るべき實質を養成するにあらざればこれ等の事よりして其宗教の俗化を招くが如き恐がないでもない。

又これ迄よりも一層今の學校教育に缺けたる宗教心の培養を、宗教の方で補ふことゝなつたら眞に國民の幸福だと思ふ。

政治と宗教

帝國大學教授
文學博士　姉崎正治

政府と宗教とは各別の方面に職務があつて而かも共に一國民の生命に關係する以上は或點に於ては接觸しなければならぬ。即ち二つの關係は相互に分界を守りその範圍内に於ては自由であるが或點に於ては接觸し結合すると云ふ結論になる。

宗教と政治とは各分界を立て、そしてその接觸點を結付けるのは何國にも必要な事であるが殊に現在の日本には其必要がある。詳しい事は略して兎に角明治六年大教院解散以來、明治政府の宗教政策は冷膽から疎外となり、疎外から無思想となつて來たのである、色々の點で破綻はあるが、この方面の缺點から生じた事は少なからずある。

それ故に政府の方でも宗教家の方でも各々自分の本領と云ふ方はこれを離して居ると假定しても二者の關係する結合點に就ての覺悟責任は今迄全然なかつた。

今度の會同問題はこの契合關係に對しては勿論解釋を與へる迄には行かないで居るが當に考ふ可くして而して考へずに捨てゝおいた問題を提起した丈の効力は認めなければならぬ。

反對す可き程のものにあらず

東北大學
總長　澤柳政太郎

頃日世上に喧傳する三教會同は宗教政策と云ふ程のものでもない、これをなすも可、反對す可き程のものでもない、但しこれより大なる効果を期待し得べきでない。

宗教にして宗教本來の面目を發揮し來れば必要なるもの、尊重す可きものと思ふ。又教育宗教とは混同を許されず、云はゞ兩々手を携へて併行すべきもの故教育の行く可き道と、宗教の行く可き道とは二にして一つならず。併行線のやうなものだ。

宗教のものには却て不利なり

京大、文科教授 文學博士 松本文三郎

現時既に我が國に於て大なる勢力を有する宗教は今回の會同に依つて何等利するところなきのみならず、却つて不利を來す恐がないでもない。何となれば彼等は從來政府の力を藉らず自らの努力により其信仰を布及したるもので又今後もこれに依るの外途なく、今、政府の旨を受けてこれを布教するも政府の方針は時々に變更し、現内閣斃れて次の内閣起る時は其方針また差異なきを保しがたい。

會同を賛す

早稻田大學 總長 大隈重信

我が國教育の大體は、教育勅語に依つて確乎不抜たる基底を得て居る。併し社會を改善するには、單に教育の力のみにては足らぬ、理性の側の啓發は教育に委すとしても、情感的の方面から、個人が各先天的に具有して居る宗教心をも善導して適度の滿足を與へ、教育と宗教と相依り相扶けしめて、一國の道義を健全にせねばならぬ。この點から見れば今回の擧の如きは決して徒爾なる擧でないと思ふ。

功果もなく害もなし

衆議院議員 島田三郎

これは宗教を利用せんがためだと云つて恐れるものもあるが、そのやうな心配は更にない、何故なれば若し宗教家にして力さへあるならば決して彼等に利用されるやうな事はないからである。

今度の會同が宗教の必要を知らせたい教育と宗教とを提携させたい、三教各自の特色を保持しておいて互に扶けしめやうと云ふやうな風の目的ならば恐らく大した効果もない代りに、また大した害もなかろうと思はれる。(以上六合雜誌)

〇信仰の友

婦人と迷信

松山高等女學校教諭 新井誠夫

世に恐るべきもの多き中にも、迷信にとらはれたほど恐ろしいものはなく、又これ程馬鹿氣た事はありますまい。ところが婦人方は兎角に物を信ずるに其由來を推す事をせず、輕く事物を信ずる傾があります。それで輕信輕疑は其常であります。この傾向は隨分教育のある人にも多い事で、私共の様に常々婦人の方と交つて居る者は屢々この傾向の著しいのに氣づくことがあります。「まあ、あの方がそんな迷信を持つて?!」と驚く事は稀ではありません。ところが輕信そのものが頓て恐るべき不可思議現象の乘じ來る原因で輕信の傾の著しい婦人が不可思議觀にとらはれる事の多いのも全くこの理によるのであります。

それで一家の内で迷信の起つて來る本源は多くの時に婦人が其主唱者となるものであります。一家に病人が多いとか、養蠶が間違つたとか味噌が腐つたとか云ふ場合に、これを不可思議的に解釋して迷信の種を一家に蒔くのは兎角婦人の方であります。かう云ふ私も家の女共が常にこの迷信的の解釋をして萬事之を律せんとする傾のあるのには閉口する事が少くありません。(新婦人)

脫線せる人性

上野行の列車が、途中機關車に故障を生じて、客車

諸共、田圃に轉落して、大破損を受けた。容易に修理すべからざる大破損を受けた。機關車は列車の主腦である。此主腦に故障なきとき、客車も無事で坦々たる線路を快走せしが、一旦破損してのちは、之を修理するものは、之を造りしものにあらでは出來ない。

人性の眞相も之とよく似て居る。人も、神の定めし線路を走れる時は、無事なりしが一旦途中人性の主腦たる意志が狂ひ出して神の意に反逆を企てた。之れ「罪」である。其結果轉落して取返しの出來ざることゝなつた。「墮落」とは之である。されど此の脫線被害せる人性を修理するものは、人を造りし「造主」自身の外、誰にも出來ない。神の聖子のインカーネーションとは、實に此脫線せる人性の恢復である。

（基督敎新報）

如來の加威力

近角常觀

其處で我々如き惡しき者が、何うしたらば安心する事が出來るかといふに、人が惡るくてもよいと言つても安心する事は出來ぬ。私が苦しんだ時、友人は皆な、君は自分で惡い惡いといふけれども、惡い事は少しも無いと言つて吳れたけれども、更に安心は出來なかつたのである。進んで惡くても構はぬと言つて吳れても、人は構はぬか知れぬが、自分の方で構ふ。夫れならば善くしたらいゝで無いかと言はれても、夫れが善くする事が出來ぬから自分は苦しんで居るのである。もう斯うなると、善くも惡しくも出來ず、何とも仕て見やうが無い。玆に於てか佛の仰せが現はれ來て下さるのである。如何なる仰せかといふに、汝等善く仕やうと思ふても、夫れは出來得無い、──『信卷』の中には。

一切の群生海、無始よりこのかた、乃至今日今時に至る迄、穢惡汚染にして淸淨の心なく、虛假諂僞にして眞實の心無し。

とあつて、人間は如何程力みても、淸淨眞實の心が起るものでなく、眞面目に依り得るもので無い。信ずる心も喜ぶ心も、淨土に參り度いといふ心も何うして起らぬ。其の汝を見て、其者が見捨てられぬが、佛のまことであるぞと呼びかけて下さるのである。

其處で如來のお心とは、常に申す如く、地震の時に百姓の苦しむを哀れと思召し、陛下よりの御使ひが民百姓の破屋へ草鞋掛けにて御出下さると同樣に罪惡深重の此身なればこそ、如來の御まことは其者目がけて現はれて下されたのである。『歎異鈔』に

彌陀の五劫思惟の願を案ずるに、ひとへに親鸞一人がためなり。云々。

して見れば實に人事では無い、此の仕樣なき私一人の爲めに現はれ下された如來の御まこと、我々は此の廣大の佛のお心ましまさずば、一日も片時も安んじて居られぬ。此の遣る瀨無き不思議の御哀みであればこそ、遂に如來のお心が我々の心に貫徹して下さるのである。（求道）

神中心の交際

文學士　小松武治

自分の日頃遺憾に思つて居る點は折角大勢の青年と接する機會があり乍ら、しんみりと交り語り祈る機會が尠い事だ。地方に出張すると或は二日或は一日と云ふやうに飛び步くのだから、二三回の演說會に臨んで壇上から叫んで一般的挨拶は出來ても個人的に會ふ折が容易に見出されないのを甚だ遺憾として居つた。ところが此間千葉に往つた時に某學生から直接聞いた言葉で以て大に意を强ふした事がある、そして今後の方針に就き考へなければならぬ事をも發見するに至た。

それは二年程以前の事、青山學院で關東部會が開かれた時千葉から某學生が來た、信者と成つて未だ日が淺い青年で熱心な信仰を持つて居る、態々遠方から來たのであり若い信者でもあるから、予は別室で共に祈禱をしやうと退いたのである、其時の祈りが其人には非常の感動を惹き起して千葉に歸つて後に、今迄よりも優りたる信仰狀態に成り青年會に對する熱心も幾層倍したるのみならず、卒業後の方針にも多大の影響を及ぼすに至つたと自白せられたのである。之を聞いた

自分は如何にも難有き事と感じたのである。人には力なくとも聖靈の働きはいと不思議のものである、希くは少數の人に此方法で交る事を力めたい、一般的大聲疾呼的の大演說も必要だが信徒間の交りは何時も神を中心として祈り談ずると云ふ風にありたいものである。（開拓者）

小事に忠なれ

ワトキンソン

小さい事でも完全にやれば貴いのだが、吾等は兎角然は考へぬ。ともすると偉い地位や、高官の人々を有難がつて居る、そして自ら卑下し、他人の中の下位下等の人をさげすむ。アービンクと云ふ名優は彼の興業の最も小役を務める人を選ぶ事に苦心した「芝居のよいところは誰にもやれるが、一寸したところを、うまく演る人がなくては困る」と云つたと云ふ事である、一寸した小役の務が六ケしいので、それを正しく仕上げるのは甚だ困難であると云ふ。野心のある連中は何でもオセロとかハムレツトとかをやりたがる、世間一般の觀客も亦所謂千兩役者の事ばかり八ケ間敷云ふ、けれども眼のある劇評家は、下役のするところが全體の出來ばえに如何なる影響を及ぼすかをよく注意するのである。一小役の失敗は全體の失敗となる事が多いのである。人生に於ても亦斯樣ではあるまいか、大政治家、哲學者、富豪と大きなものばかりはやし立てる、併し神は小事の重い事を知り玉ふ、小事を完全になすには高徳の必要な事を識り玉ふ、小事をなすの如何に難い哉、つぶやく事なくしてこれを行ふのは容易でない、狹いところに倦まず撓まず勉むることはなかなかだ、人が世の表に立つて得意顏に振舞ふのに、自ら身を低して下働をするのは英雄心あらずしては能はぬ、人の勵ます事もなきに年々歲々苦惱の中にあつて尙其義務を果すには信仰なくては叶はぬ。小さきに忍ぶは、人の性格を試みる最も堅い試金石である。（教報）

前進せよ

本間俊平

前途を危懼せずして進め、後に在るものを糞土の如く捨てゝ進め、前にあるものを望んで進め、神キリストイエスに由て上へ召て賜ふ所の襃美を得んとの標準に向て進め。進化の宇宙に存在して退くもの愚圖つき居る者は死しものである。勇みて進め去年より大なる恩惠は加はり來らむ、敎會盛大なるも衰ふるも餘りそれらの問題に腐心せずして進め。吾等の標準は只一つ主イエスの十字架である、其大なる愛である、愛の外何ものをも顧慮せずして進め。勇壯快濶、謙遜、大膽にして進め、汝に由りて神の榮光は四方に輝かむ。（基督敎世界）

〇教育界

關西に勃興る同志社大學

同志社大學の外觀 京都の南端なる七條の停車場より、一直線に舊都の大市街を南北に貫通すると、舊紫宸殿の跡、昔大宮人の櫻かざして遊んだ名殘今も猶遺つて居る御園に行當る更に足を止めないで御園を突拔けると、其處は京都の北の端、有名な相國寺の森が見えて、其間から赤煉瓦の宏大なる建物やら鐘樓の如きものが三棟も四棟も尖頭を見せて居る、關西に於ては帝大の外に一寸見られない美觀である。是が今度認可された新設の私立同志社大學。

大學組織前の同志社 私立同志社大學は、明治八年の創立以來今日に至るまで殆んど三十五年間の長い歷史を有して居るので從來とても關西に於ける私立學校中の最大なるものであつた。創立者新島襄氏歿後の同志社は大學設立の機運到來するまで極めて堅實なる步調を執て進む事となり、普通學校神學校女學校の外に

大學に進む一の階段として專門學校を新設する事になつた。專門學校は文部省の專門學校令に依る高等專門教育で、經濟科と英文科を分設し、原田助氏社長の下に經濟科は數名の專任教授あり。英文科は、主任米人ロンバート氏を中心として尙他に數名の專任教授と、京都帝大の諸教授を聘して講師となし、經濟科、卒業生は主として銀行會社、英文科の卒業生は多く中等教員等の教職に就て好成績を收めて居た。

同志社の規模及財産　斯の如き次第で新島氏歿後の同志社とても、外觀の建築物は無論の事、財産の内容も亦相當に彪大なるものであつて、既に久しき以前より法人團體となつて居た。其資産總額は圖書、器城等を除て約九十四萬六千餘圓、其中不動産が四十八萬餘圓、有價證券二十九萬四千餘圓現金十七萬圓を有して居る。建物は巍然たる煉瓦造りの講堂及教室が四棟、其他を合せて三千八百餘坪學校の總坪數は二萬八千坪、それに圖書は宏大なる煉瓦建の圖書館があつて約三萬卷を藏して居る。

大學新設の實情と設立の主腦　既に斯の如き基礎を有して居るのであるから、從來とても大學を設立せんと欲すれば左まで困難な事ではなかつた。併し故新島氏が華々しく天下に打て出た跡であるから、徒らに世の輩に倣ひ、輕卒な事をして却て新島氏の名を傷けるやうな事があつてはならぬといふ注意から時機の到來するまでは、名を避けて實を收める方針で、やゝ大學教育に近い專門學校で今日まで繼續して來たのであつた。然るに時代の進歩は益々大學教育を必要とするに至り、同志社も最早多年の宿望を遂げて國家焦眉の急に應するが至當であらうといふ者があつて、玆に當事者と校友との協議で大學組織に變更の議を決し、昨年春より先づ校友間に大學基金を募集したが、昨年末迄に應募した總額は二十八萬餘圓といふ巨額に達した。斯の如き熱心が校友間にあるならば何事か成らざらんやといふ意氣込で學校當事者の外に校友たる朝鮮銀行總裁市原盛宏、法學博士浮田和民、貴族院議員德富蘇峰、村井銀行頭取村井貞之助、式部官古谷久綱、湯淺次郎の諸氏を始め二十名の創立委員を選定し、德富氏を創立委員長として萬般の計畫を立て舊臘文部省に出願して二月十四日認可となつた次第である。

大學の修業年限　斯く認可された同志社大學は政治經濟部神學部英文科の三つに分れて居る。修業年限は政經部及英文科が豫科一年半本科三年、早稻田大學と同樣である。神學部は豫科二年本科三年是れは從來同志社の一部であつた神學校を大學程度に引上げ、之を大學の一分科として認可を得たのである。

教授及講師　政經部及英文科の教授は從來の專門學校で教鞭を執つて居た水崎基一米人ロンバード、米田庄太郎、和田琳熊、佐治秀壽、中川淸吉氏等の外に、浮田博士は同校との關係上現在の早稻田大學教授として新に同志社大學の教授をも兼ぬるに決し、双方の教授時間割を妥協して東京と京都の間を往來する事となつた。尙京都帝大教授中田島錦治、末廣重雄、戸田海市、神戸正雄、市村光惠、松本文三郎の諸博士を始め十數名の學者東京より德富蘇峰、山路愛山、稻田周之助等の諸名士新に同志社大學の講師として就任した。又本年より學者を海外へ留學せしむることゝなつた。

特色ある教育方針と科外講義　同志社は從來英語の力に於て他よりも進歩して居るから、新設の大學に於ても講義の外に教科書を用ゐ出來るだけ開發教育自由研究の特色を發揮する方針であるさうな。而して更に科外講義に依り學生の智識を一般的普遍的ならしめるの方針を立てゝ居る。此科外講義は我國に於ける高等專門學校教育の弊を矯救せんが爲に創立したもので、普通所謂科外講義と頗る趣を異にし、殆んど准正科の如き組織的のものである。由來高等專門教育を受けて世に出る者は、一部專門の智識は修めて居るが、高等常識の素養が頗る缺けて居る。故に卒業後種々なる職業に從事しても健全有爲なる人格を以て世に立つ

ことが出來ない。是は專門敎育に偏するの弊害で、普通の大學敎育の本旨とする所でない、正科は專門敎育としても他に何等かの方法で生徒の敎養を普遍的ならしむる方法がなくてはならぬと種々研究の結果組織的の科外講義制を案出したのである。故に是れは同大學の一新特色ともなるべきもので、若し好良績を擧げ得るならば我學界に一新機軸を出すに至るべしと思はれる。之が爲此科外講義に當る講師の選擇にも頗る意を用ゐたさうだが前記講師の外市原盛宏、小野英次郎氏を始め東西の諸名士主として此科外講義に當るといふことである。（實業の日本）

敎育と宗敎

中央新聞

敎育界の現狀を顧りみ之を敎育勅語に依り示されたる國民道德の理想に照す時には吾々國民は果して全く滿足するを得べきか、各地より頻々として來る敎育界の紛擾又は醜聞は敎員と云はず生徒と云はず精神修養の餘地甚だ多きを暴露するものに非ざるはなし、殊に文部省が千篇一律の形式的德育方法は高等なる學生の智識と希望を滿たすに足らず惰心厭氣は滔々として彼等の間に漲らんとし、甚だしきは危險思想亦た彼等の心を襲ふことなきを保せざるの事情にあり、窮餘の一策として前內閣の文部大臣は神社の參詣を勸誘し祖先崇拜の風を皷吹せんと試み文部の命を含みて地方に巡講せし博士等亦た敬神の必要を說きしも、其說偶々聽講者の冷笑を招くに止まり更に効果の見るべきものなかりしが如きは遺憾の事と謂ふべし。

惟ふに敎育と宗敎を分離するの方針は何人も異論なき所なるも、此方針を解して宗敎を排斥するものと爲すは大なる誤解と云はざる可らず、床次內務次官の云へる如く、神と云ひ天と云ひ又佛と云ふ其名異なりと雖も其指す所蓋し同一也と云ふべく、之に對し敬虔の念を持するは高尙なる道德を養ふに與りて大に力あるべきは見易きの道理にして、又斯る宗敎的修養の敎育勅語の聖旨に違はざるは言を待たざる所なり、天下の人皆な擧げて宗敎家と爲すべからざるか如く、宗敎の感化を敎育界より排斥せんとするが如きは一種の妄想と謂ふべきのみ。

吾々の見る所を以てすれば學生に對して今一層思想の自由を許し、宗敎の如き課外に之を研充するの機會を有せしめ、各人をして自覺特立の地步を占めしめんことを要す。（中央新聞は現內閣の機關新聞なり）

決して小供を叱らぬ小學校

ジヨセツフイン、トズベル

四年前マリヤ、モンテツソリーに依て羅馬に設立された小兒の家は根底より現今の小學校敎育を改革せんとする狀態である。モンテツソリーの敎育一言之を蔽へば自由開發敎育である、小供を叱らぬ敎育、小供の活動を干涉して一定の型に壓付けぬ敎育主義である、然しながら小兒は叱られず、强いられず、嬉々として春來りて自然に花開く如く、智識が開くので、モンテツソリーの經驗によれば四歲又は五歲の小兒は六週間にして文字及作文の能力を得るので、これを得能はざるものは發育不完全の小兒であるといつて居る。モンテツソリーの單に智識ばかりでない、モンテツソリーの

教育を受けた小兒は、四五歳で大人よりもたくみに食器を洗ひ掃除をするのである。先生が唯一言今日は庭で授業しますといへば、種々澤山の道具を奇麗に整理して四角な布片に包みて獨りて整列して屈曲して居る階段を靜粛に降り、途中廊下を掃除して居る者に會へば、掃除婦が中程に細い道を拓いて作るを待ち、後ち一人つゞ徐々と通過して庭に出るのである。

既に瑞西、米國等にてはモンテソリーに養成されたる教員によりて學校開設され、英國印度・墨耳古アルゼンチン等にも亦準備中である。科學的に説明をすれば小兒の指頭其他の感覺を充分に訓練し、四圍の物質を正當に感知せしめ、四圍に適應せしむるので、感覺が鍛錬されれば自然擧動が靜粛正確になるのである。自由教育といつても盡く放任するのではなく他及自己に害を及ぼす行爲だけ温顏を以て簡單の言葉で遮止めるのである。教師として養生さるゝものゝ最も苦むのは小供の有益な行動と有害な行動を辨別し後者を制止するに當り後者のみならず亦有益な行動を止むる事である。教場の騷擾の如きも、別に制止せず、温顏教授を開始して自然に靜まるのを待つので、時々一分間ばかり靜粛に座せしめ後自由に放任するので、久しく無理に靜粛を強ふるようの事はない。

教育を過重視するの弊

男爵　後藤新平

抑々教育は被教育者の智徳を啓發し、有爲なる人物を養成するを目的とせる仕事であることは勿論であるが、今日一般の父兄は餘りに教育の効用を過重視し、學問を萬能視して居るやうな風潮になつて居ると思はれる。即ち子弟に對し、唯教育さへ受けさすれば、立派な人間となり、間違なく衣食の道を求むることが出來るといふやうな考えを抱いて、妄りに學問を奬勵して居る。隨つて彼等は子弟に對して過ぎたる要求――過度の豫習復習――などを強ひ、却りて子弟身心の發達を阻害するやうなことがあるのを顧みない。神や佛を信仰して居る者が、動もすれば、之を玩具的に取扱ひて、却りて神佛の威信を害するやうなことがあるが之と同樣に世の父兄が一途に學問を有り難く思つて、此の神聖なる教育を翫弄して居るのは實に歎かはしいことでる。

（教育實驗界）

（○風教）

矯風會の今昔

海老名みや子

聖書には一粒の芥種も生長すれば空の鳥を宿す程の者となると云つて、何等正義の働きが小いとて失望するなといふ樣に教えてありますが、矯風會の事を思へば實に今昔の感に堪ないのであります。此程久々で番町なる矢島矯風會々長をお尋ね致しました。折しも同會常置員臨時集會中で、十名あまりの方々が御集りになつて居りましたが、何れもお親しい方々でありますので、私も御末席に列して承ることに致しました。老會長は今日此臨時集會を催された理由を述べられまして、今回大阪の大火が、不思議にも再び彼の遊廓を灰燼に歸したといふことは決して偶然の出來事ではない、能く〲深い神意の存する處と思ふの外はありませぬ。此時に當り我らはどうして此機を見過しにすることが出來ませう、せめては我が此老軀を提げてかの地に向ひ

市民の覺醒を促すことを得ば實に本懷である。就ては今夕六時半の列車で山室氏と〻もに彼地へ向て出發する筈であるから此爲に皆さんのおいでを願つたわけであると、熱誠溢る〻老會長の言に列坐のめん〳〵、いづれも無限の感に打たれました。尚一二重要な相談を爲す中に、御出發の時刻が切迫しましたと、女子學院の舍監、矯風會の書記の方々が手拭よ、櫛よ、ハンケチよと取揃へる中に會長は悠々と身仕度をなし、持出された夕飯を幾はいか召上る中に、あれはこうしてこれはあうしてと四方に指揮されつ〻、いざとばかりいでた〻れたる樣は、流石に老將軍のいくさ立ちもかくやと思ひ起さしめて勇ましく覺へました。

おもへば今より廿五六年も昔のこと、忘れもしませぬ、まだ小崎夫人や私など帶のあはひに赤いしよいあげがほの見へて居た頃に、此矯風會は創立されました。初めて集りを開きましたのはもとの虎の門敎會であつたと記臆致ます。其頃は今日の樣に世間にも、ヤレ愛國婦人會だ、婦人敎育會だ、何々會だと大きな婦人の會合は聞たこともない頃で、婦人會といへば基督敎の各敎會内に十數名の求道者を集めて、聖書のお講義を伺つて編物のお稽古をする事であると心得て居た時代でありましたので、何しろか〻る大規模の會合は珍らしくて、ずい分澤山の婦人方が集られました。初めは禁滛會としての相談であつたと思ひますが、禁酒丈けでは範圍が狹いからといふので、矯風會とすることになつたと記臆して居ます。

禁酒會で思ひ出しますが、其頃禁酒に二の說がありまして、一つは嚴正禁酒で、酒といつたら藥にも用ひない、一切酒氣を含んだものは用ひぬといふ主義であります。この有名なヤングメン老孃が其說を主張しまして仲々盛んでありました、ある姉妹が、さう仰つても日本のお料理には、大てい酒やおみりんがつかつてありますが、若し余所で御馳走が出た時はどうなさると申ますと、それはお酒がは入てると知れば決してたべないと申ました。此說には大分弱つた方もあつた樣でしたが、結局其見解は自由に任せるといふ事になつた樣でありました。今一つ其禁酒で面白い話があります。其嚴正禁酒に反對のある牧師さんのお宅に、一日嚴正禁酒主義の友人が見へられましたら、見事に樽柿を堆ぐ盆にのせて其前に出して置いて、ア、君は禁酒會員だつたれえ、それでは此柿は食べるわけには行かないれえといつて、自分丈さつさと召上つたといふ樣なことも、其頃の一つばなしでありました。

其頃は恰度かの鹿鳴館時代で、世は欧化主義全盛の頃でありましたから、精神的方面は申に及びませんが、外形の方にも矯正すべき事は率先してやらなければならないといふので、中には洋服裁縫の稽古をして、手ごしらへの洋服を着て、どんな集會にもかまはず出た滑稽ばなしなどもあります。思へば夢の樣なおはなしでありますが、當時信者の意氣の盛んなとは今から想像も出來ない位でありました。

星移り物變つて、凡ての方面に活動された同會の勇將中には疾に他界せられた方々も幾人もありますが、今年八十歲の老會長のみは矍鑠として、壯者を凌ぐ勢を以て東奔西馳されますのは感謝すべき事であります。尚同會にはこの老會長を助けて廿年一日の如く、會のために盡されて居る老練な熱誠な姉妹方も少なからずあることでありますから、其深い實驗と老熟と熱誠とを以て活動致されますのは、社會改善の上に一大勢力であることは疑ひないことであります。（新女界）

子守の敎養

内務省囑托　生江孝之

子守の日常行爲がその幼兒の性情に及

ぼす影響の如何に大なるかを確認する泰西に於ては、子守の撰擇に細心の注意を加ふるは至當の事であらう。故に相當資産を有する家庭では、子守を雇ふる場合は先づ保育又は看護の一端を心得たるもので、年齡は十七八歲以上四十歲以下の者を多く撰擇する。特に英國の家庭に於てはその子守の撰擇に對して注意の周到なるかは同國の家庭を學ぶものゝ均しく認めて歎美する所である。

而してその服裝の如きも英國に於ける看護婦の服裝に類似し、質素にして頗る上品である。倫敦のハイドパーク、又はケンシントン公園内の如き、右の服裝をなせる所謂子守が、乳母車を擁護しつゝ之に至て園内を逍遙するは誰人も能く發見する處であるが、是等は慥に園内に於ける一種の美觀である。以て我邦の子守と全然其の撰を異にしてゐるのが察しらるゝ。

翻つて現時我邦の一般社會特に普通商家に於ては未だ能く子女教育に重を置かざるが爲、子守を雇入るゝに當つても、その子女の家庭、年齡、若しくはその教育程度の如き殆んど念頭に措かないやうである。而して身體の强壯にして給金の廉いものであれば敢て其他を顧みないのである。人間生涯の慣習は幼時五六歲迄の保育教育に甚大の影響ある事を知らば子守の撰擇に對して充分の注意を拂ふこと泰西の如くに致し度ひたいが思慮未だ之に至らぬは幼兒教育上深く悲まざるを得ない

故に一般家庭に對して子守の撰擇に細心の注意を拂ふべきを勸告すると同時に、現在の子守に對しては假令義務教育完了の後と雖も、或る施設の下に子守の心得を教育することが頗る緊切なる事である。

（慈善）

◦家庭教育

私の娘を教育する方針

安部磯雄

私は男女に拘らず、先づ子供を自ら活きる事の出來る人間に仕上げてやると云ふ事が、親たるものゝ一つの務であらうと思ひます。

男子を教育するには世間一般の人々が、知らずく此の考を實現して居りますが、女の子となると、男子に頼る女の身に、生活上の問題は不必要であると定めてしまつて娘のために、かゝる心構をする親達は少いやうであります。自ら生き得る力、活き得ると云ふ自信は金のないものばかりでなく、男子にばかりでなく金持にも婦人にも是非必要なのであります。

富人にその頭があり、教育費にも困まらない親は、娘に高等教育を授け、教師なり書記なり出來るやうにし、親に資力のない場合には、娘に何か手近な、直に役に立つやうな一藝を授けたい。

そして私は男子よりも寧ろより多くの力を女の子の教育に注ぎたい。何故なれば、女が一旦家庭の人となり、人の母となつた以上は、暫らく社會から遠ざからねばならぬ。然なると社會教育を受くるの時が婦人には誠に少ないのである、これを償ふため娘時代に出來るだけ教育を授けて置く事が大切であります。頭さへ出來て居れば、妻として十年二十年、家に閉ぢ籠つても書籍や新聞雜誌などにより間接に教育を受ける事が出來ませう。

（婦人の友）

學校教育信ずべからず

某夫人

今日の學校教育は上下を通じて不消化の弊があるやうです、學科を教へるのに生徒がよく會得して呑込むまで教へて居ないやうであります。殊に高等女學校に於ては其弊が著しいやうでありまして、五年間の教授に何を教へて貰つたか殆んど何の役にも立つて居ないかのやうに考へられます。

それ故家庭に於きましては、學校教育を過信することなく、學校教育の缺陷を家庭で補ふやうに努むるの外はありません。それには家庭に於て毎日〳〵進んで行く學校の課程を逐うて復習させ、片端から一〻了解し會得するやうに手傳つてやることが肝腎で御座います。學科の進歩は學校で教へて貰ふだけに止め、只之を咀嚼の出來るやうに、手傳つてやる事が必要でございます。復習の名の下に、未だ學校で學ばないところまでも教へるのは、徒らに子供の研究心を減殺するばかりで、寧ろ好ましからざることでございます。(同)

低い生活に慣らして置くこと

山脇高等女學校長　山脇房子

娘が新に家を持つとすれば、何うしても親の家よりは收入も少なく從つて、萬事が小さいものと見なければなりませんから、母親は其心して練習させねばなりません。

とかくに生活と云ふものは膨脹したがるもので、縮小するといふことは六ケしいものでございますから、親の家が百圓の收入ならば、娘の家は先づ五十圓位のものと見ておいてよいかと存じます。

大きく慣らされて居て急に小さい家を持ちますと、或はそれがために不平の念の起らぬとも限らず、左樣でないまでも今迄大きくバッ〳〵と遣つて居たのが、縮小せねばならぬことになりますと、非常に遣りにくゝもあり、苦痛に感ずることであらうとぞんじます。(同)

娘はノンビリと育てたい

日賀田逸子

お嫁入前に仕込むの、躾けるのと云つて、ヤレ學科の勉強だ、何のお稽古だと責めたてるのはどうでせうか。嫁に行つて折角これから働が現はれやうとする時に、勞れてしまいはしないかと思ひます。またさう云ふお嫁さんが子供をもつと、弱い子供であつたりしてどんなに不幸かわかりません。

一體箸の上げ下げに喧しく云ふと云ふやり方は、云ふ方も面倒くさいし、聞く方も煩さくなるばかりで、肝腎の利目はあまりないやうです。それよりは子供にだつて相當に考がありますから、默つて子供のするやうにさせて見て居ます。そしてよい機會のある毎に教へてやるのです。子供の教育と云ふ事は細かい事に一々世話をやくよりも、もつと根本にあると思ひます。

何デモドシ〳〵使ふがいゝ

早川鐵冶氏夫人　早川きた子

男子は勿論のこと、女子とて一日を愚圖〳〵何もせずに暮して居るやうでは不可と申すのが、主人の流儀でございますから、親が兎や角やつて居るから、娘等もそれにつれて結構に遊ばせておくと申すことだけはないやうに致したいと心掛けて居ります。

それに父、親も娘の子はどのやうな家に貰はれるか知れず、貰ひ人さへあれば何處へでも遣るのであるから、少しでも早く家持の稽古をさせるがよい、學校の復習位に追はれて居るやうでは仕方がない、何にでもドシ〳〵使ふがよいと申しますので、娘達も父に勵まされるのが嬉しくて、競つてあれもする、これもしようと申しますから、ちよい〳〵小遣帳の下づけなどもさせて居ります。

土曜から日曜にかけて、献立から料理を練習致させて居りますが、長女と次女の兩人に任せますので甘かつたり辛過ぎたり、いろ〳〵な御馳走を戴きまして、大笑ひ致すことでございます。(同)



社會雜觀

廓清會理事
早稲田大學教授　文學士　内ケ崎作三郎

(一) 家屋に就て

日本にも追々西洋の風俗習慣が這入つて來て、昨年歸朝して足かけ四年の留守中、著しい變化のあつたのは洋服を着るものゝ増加である。殊に長いマントの流行は著しい樣である。あの風のマントは英吉利や米國では餘り見ないけれども、歐洲大陸には到る處行はれてゐる樣に見受ける。特に露西亞や獨逸あたりの女學生などが、雨天によく着て歩くのを見た。日本の少女たちもマントを着る樣になつたのはよい事で、雨に濡れ易い木綿製の合羽よりは遙に實用的である。又瓦斯や電氣の利用法も著しく發達した樣である。これ等は元より喜ぶべき現象で時間の貴重なる事を知らない日本人には物質文明によりて刺戟を與ふる事が最も捷逕であるかも知れない。

人力車は依然として存在しておるが、主として護謨輪を用ゐ、或はベルをつけ、其他硝子付の前合羽をつけたりする樣になつたのも確に進歩である。吾人は將來人力車及車夫を日本の道路に於て目擊せざる時の一日も早からん事を冀つてゐる者であるが、若し此事が急速に實行せられずとせば、せめて人力車の外觀を改め來つゝある事を喜ばねばならない。斯の如く一寸上すべりに日本の社會を見ても、過去三四年間の進歩が讀まれるのである。

併乍家屋の構造に至つてはあまり進歩を認むる事が出來ない。勿論除外例はあるが、多くの借家は殆んど千偏一律のスタイルで以て建てられてゐる。殊に今後は益々家庭に於て勉強し又は仕事する人が殖えて行くにも關らず、その需用に應ずる樣な設備は甚欠乏してゐる。書齋を有するが如き貸家は殆んど見當らぬといふてもよろしい、便所の位置に至つては最も感服する事が出來ぬ。大抵の家に於ては便所は客間の隣にある或は床の間のかげにある。而して手水鉢は一種の裝飾品となつてゐるのだから驚く。甚しきに至つては下便所は臺所に接近してゐる所がある、かゝる不攝生なる事は歐米に殆んど見るべからざる事である。便所を客間に接近せしむるといふ事は無意義な、否寧ろ有害無益なる順俗的風習である。何故に便所を一間位の廊下を以て隔離せしめないか、日本人は過去幾百年の間此風に馴れてゐて恬として怪しまないのであらう、此點に於て大に廓清が必要である。

(二) 手紙に就て

日本人はどうも手紙を書く事に無性である。尤も西洋から歸つて來れば、新歸朝者等と云はれて虐待されるから、實際時間がなくなつて、西洋の友人に文通す

る暇のない事は誠に致方ない事である。西洋人は此事情を知らずして日本人は忘恩者であると非難するのである。

僭國内に於ても日本人は槪して筆無性である。之は筆紙墨の置場からよろしくないからである。大抵の家庭に於ては主人の居間若しくは座敷しか之等の要具が置いてない。然るに英國の家庭に於ては大抵食堂の隅に小さいデスクがあつて、食後直に手紙を書く、若くは挨拶をする事が出來るやうになつてをる、其他應接間にもデスクのある家もある。從つて一寸した暇があれば直に手紙を書く氣にもなれるのである。寄宿舍の如き處には學生の控室には一切の用具、紙、及狀袋が備へられてある。だから友人と談笑しながらでも手紙を書く事が出來る。恁ういふ樣な有樣で自然筆無性にならうとしてもなる事が出來ない。學生等の部屋にしても机の上には必ず狀紙及封筒の箱が一つ乘つかつてゐる。之等の設備があるからどうしても筆無性になりかねる譯である。そして西洋人は手紙を受取るや否やそれを開封して不必要なものは直に破つて、紙屑籠の中に入れるか若くば火爐の中に投ずるのである。これ等の事は小い事柄ではあるが、やはり時間と勞力を節制する助けともなるのである。兎に角日本の家庭に於ても通信の爲にはもう少し便利を備へることが必要だ。殊に日本では一々座つて机に向はなければならぬ樣な譯であるからして如何にも億劫になる。將來はどうしても家庭に於て椅子を用ゐる風を弘めたいと思ふ。實際腰をかけて仕事をすれば疲勞を感ずる事が少い、日本人は正座するが故に肩が張る。從つて按摩の必要も起るのである。此頃流行の岡田式正座方をやつてゐる人の話しによれば、西洋人が腰をかけてゐる體度は知らず〳〵の間に、彼等をして岡田式呼吸法を實行せしめてゐるのだといつてゐる。兎まれ日本の座居制度を改善するといふ事は大問題である。

（三）道路と履物

日本の道路の不完全なる事は兎に角有名なるものである。本鄕の赤門前には理想的の道路がある、其他に於てはすべて甚不完全である。伯林市の如きは大通りは悉くアスファルトであつて坦々として砥の如き見事なる道路である。多くの少年少女が滑車に乘つて其上を遊戲する狀態は誠に羨ましい。紐育市では同市丈の一年間に要する道路修繕費五千萬圓に達してゐるさうである。東京の場末の道路は雨降り上りや霜どけの時は苗代田の如き觀を呈する。そこで洋服に高下駄といふ樣な奇異なる現象を生ずるのである。日本の婦人達が下駄も止むを得ないが、高下駄なる者に束縛せられてゐる間は、とても立派な體格に發達する事は覺束ない、此咀の着纒ふ間は日本婦人の體格は到底前屈みかま足を脫する事は出來ぬ。

日本では學生青年たちが好天氣の時にも一種の高下駄を踏み鳴らして揚々として意張つて步くが、其意氣は愛すべしと雖も之は公德上の問題である僕は度々電車の中に於て電車が俄に止まつたりする動搖の度每、高下駄の連中がぐゝわたぐゝをとたぢろくので老人や婦人達がそれに踏まれて泣かぬ斗りの顏をしかめてゐるのを見た。これ等もやはり公德上の一問題であると思ふ。何とかして改善の方法を見出さねばなるまい。

風教時言

●松浦醫學博士曰く言ふ迄もなく國家の單位は妻帶者にあるので、妻帶者の多くなる事は軈て國家の富强を意味する。夫故に妻帶をするといふ事は人間の道を全うし得たるものとして社會の尊敬を贏ち得るのである。故に西洋に於ても東洋に於ても妻帶といふ事が頗る尊敬すべき行爲となつてゐるが、悲しい哉日本では妻帶を重んずるといふ精神が頗る缺けてゐる。妻帶して初めて得べき人生の樂を妻帶前に於てやつてしまう。詰り此點に於て妻帶者の資格と非妻帶者の資格が混合されてゐるやうなものだ。之は甚だ宜敷くない事だ。若し青年修業の目的を妻帶の資格を得る事にありとするならば大變によろしからうと思ふ。未だ妻帶する資格を有せざる者が獨り妻帶者のみ享有し得べき權利を得んとするは宜敷くない事である。さういふ權利外の慾望が軈て非倫理的の行爲を生むに至るのである云々。又知言といふべしだ。

●某紳士曰く友人が外國に留學するので送別會が開かれた。すると藝者が出て來て頻りにほざく、何れの送別會、歡迎會といつても大抵此んな風であるが、一體何ういふ心持であるか薩張分らぬ。送る人も送らるゝ人も肝腎な送別そのものは忘却して了つて、只藝者とふざける事を目的として集つたかのやうな有樣だ、主客の間には毫も溫情といふものがない。私はつら〳〵情なく感ずる場合が多い、送別會などゝ云へば互に往時を語り、語られつ、又は將來の事でも語り合て永刧に友誼を厚うするの工風でもする事によりて初めて會の趣意は遂げられるのであらう。只徒に野卑なる行動、その卑穢なる言語、何とも言はれたものでない。然ら不作法な藝者が紳士に對する禮儀をも辨へず『あなたどうしたの？こうしたの？』なぞ主婦が乞食にでももの云ふやうな無禮な言葉をも嬉んでニコ〳〵聞いて御坐る所謂紳士諸君の眞拔さ加減殆んと馬鹿〳〵しくてものが言へない云々。

＊　＊　＊　＊

●出獄人の救濟事業に經驗ある人の話を聞くに、男子の犯罪者は改過遷善せしむるに難くはないが、女の出獄者は頗る保護に困難である。それも放火殺人等は却て矯正し易いが、藝娼妓淫賣婦等の犯罪者は、手の付けやうがないといふ話である。さもあらう。何となれば彼等は皆人間最大の恥辱を受け、全く婦人としての廉恥心を失ひ、毒喰へば皿迄と自暴自棄の極に達して居るからである。其故に爲政家たる者は可成斯くの如き困り者の女を、作り出さぬ樣にせねばならぬ。換言すれば今のやうに直ぐに藝娼妓淫賣婦になり易いやうな事にしておかず、此等の業に就くことは非常にむづかしい事として置かねばならぬ。其爲には警察附屬の敎誨師を置いて、彼等があんな稼業を出願した其時に大に之に異見を加へるのも一つの方法であらう。

それから又既に其稼業に就くにしても、折々一ヶ處に集合せしめて、高德の敎誨師から諄々として貞操の重んずべ

く、賣淫の賤しむべきを説教したならば、絶對の効はなくとも必ず相應の効果あるべきを信じて疑はない。

今日では學校でも修身教育あり、軍隊でも精神教育あり、鐵道電車の從事員の間にも常に修養講話をなして、精神上の訓育を爲して居る。然らば則ち彼等の如き不正なる營業、又不正に傾き易き營業を爲してゐる人民に對してその倫理教育を施さないのは實に怠惰の罪を免れぬ事である。

何人の怠惰の罪か、宗教家の罪か、當事者の罪か將又社會の罪か、何にしても大なる缺陷といはねばならぬ。

今の内務省が教育、宗教の調和を圖り、國家道徳の涵養に努めつゝあるは我々の感謝する所であるが、どうか願はしきは一般國民の道徳的修養もだが、其と同時に、否それ以上に、動もすれば不道徳に陷り易き或は既に陷つて居る人々の爲に其方法を設けて貰ひたい。

さうなつたら我廓清會の如きは進んで其衝に當るを辭せないのであるが、如何せん彼等の不道徳を矯正するは、軈て彼等の眼前の利益を奪ふ事になるのであるから、當局者に於て其の準備をして貰ひ、又講話の當日も警官自身が必ず立會ふ事にでもせぬと之が實行は六かしからうと思はれる。

＊　＊　＊　＊

◉高知縣千葉縣等は既に藝妓の檢黴を實行して居るらしい。それに就て某新聞は千葉縣の例を擧げ、何等の効果もなかりし爲め、目下中止の姿となつて居ると報じて居る。若し藝妓の檢梅が何等の効果もないものとすれば娼妓のそれとて同じ事ではあるまいか。

＊　＊　＊　＊

◉和歌山縣の非置娼運動に最も與りて力ある闘將は恐らくは久下豐忠　氏であらう。同氏は基督教信者でも何でもないが然し此問題に就ては十五年前より研究怠りなく、今や幾多の有力なる材料は蒐集せられ、昨年の如きは同縣出身の代議士にして、同氏の友人たる中村啓次郎氏に托し、是非帝國議會の壇上より公娼全廢を叫べと、注文した程である。同氏自身も嘗ては衆議院議員の候補として撰擧を爭ふた事もあるが、その政綱の一つは實に全國の公娼全廢といふにあつた、吾々は斯の如き篤志の士を有するを和歌山縣の爲に誇とするものである。

尚又同地の市會議長森懋　氏の如きは熱心なる非公娼論者で、久下氏と共に和歌山縣の爲に、何時も之が爲には沒分曉漢と爭つてゐるのだ。聞く處によれば昨年内閣が交迭して今の西園寺内閣が出來ると、直ぐに原内務大臣に手紙を送つて和歌山縣に於ける置娼運動の歷史を述べ、本縣には單に行政上の才幹を有する人物であるのみならず、その人格に於てその日常の生活に於て充分縣民の摸範とするに足る人物を送つて呉れるやうにと注文を致した位である。

去るにても古の豫言者が我れ叫ばずんば石叫ぶべしと言つたやうな譯で、基督教徒が此問題を絶叫しないと他の人が必ず之を唱へずには置かぬ。現に東京では耶蘇嫌の隊長を以て人も認め、自らも許して居る加藤老博士の如き人すら盛に廢娼の必要を絶叫すること讀者の知らるゝ通りである。(逸)

廓清餘錄

▲靜岡に於ける演說會は大變よい結果を齎らした。何しろ千八百といふ大入で、而も滿員の爲めに入るを得ず空しく歸つて了つたものも幾百人となくあつたさうな。何は兎もあれ、近來稀有の大盛會であつて、その翌晩の如きは二長町（遊廓地）の遊客が著しく減じたといふ事である。

▲そこで一樓主曰く、今迄はお客さんの方から來て頂くので、詰りお求になるものを差上げる理になるのだから、之が公共の爲と思つてゐたが、客がないと云ふ事になれば致方はない、他に職を求めねばなりますまい。

▲更に喜ぶべき報導は聽衆の内に貸座敷業者の一子息があつたさうだが、頗る感動して歸り、その親を說いて是非廢業するやうにと勸告をしたといふ事だ。

▲其にしても何うしてそんな事が記者の耳に這入つたか讀者は不思議に思はるゝであらうがそれが頗る面白い。即ち或救世軍の兵士が宿借りをしてゐるその二階に二長町の妓夫の一人が同じく宿借りをしてゐるさうであるが、救世軍の兵士が居ると知るや知らずや、兎に角こんな噂をしてゐたさうである。

▲然し何は兎もあれ、斯樣になつて來ると我等は營業者諸君に對しても甚だ憐憫の情に堪えない。そこで靜岡支部の委員長たる原口源作氏は（富士合資會社支配人）是非あの人達に逢つてやりたい、さうして導いてやりたいと言て居られる。

▲斯くてこそ始めて敵を愛する基督教徒たるの價値も發揮せられるゝ譯だ。只攻擊する一方であつたら基督教徒たる必要はない。

▲靜岡の事に就て記すべきも一つの事がある。嘗て吾輩は松井知事に逢つて二長町の廣告塔は靜岡を通過する列車の中からもよく見えて西洋人なぞに對しても聞かれて甚だ困る事が多いといふ、どうかあゝいふものは取除くやうに致して頂戴したい者だといふ希望を述べておいたが果然知事及び靜岡警察署長の古澤氏の英斷によりて全く取拂はるゝ事になつた。本人に對しては聊か氣の毒ではあるが風致の點から言へば感謝すべき事である。

▲我國に於て公娼のない縣は獨り群馬縣のみであるが、和歌山縣も亦殆んど公娼なき國と云つても差支ない。

▲只數年前淸栖伯爵が同縣知事でありし頃、誘惑に罹つて公娼論者の說に乘せられ、新宮、糸谷、大島の三ケ所に置娼の許可を與へた。それに就ては種々の醜聞之に伴ひ、現に新宮遊廓の一樓主は元和歌山縣廳保安課長たりし人である。こんな譯で、同縣下に於ける正義派の非常なる憤慨を買ひ今尙ほ如何にもして同遊廓指定地の取消を爲し、以て和歌山縣の名譽を恢復せんとの運動は常に怠りなく行はれて居る、恐らく遠からざる内に再び非公娼國の名譽を得るに至るであらう。

▲醜聞と云へば更に滑稽なる事がある。それは先に三遊廓地と云つたが、その內の一ケ所糸谷の如きは遊廓地として指定はしたものゝ今に薩張遊廓が出來ないか

ら滑稽ではないか。遊廓地としての免許は與へた、乍然遊廓は出來ない。詰りそんなもの丶需要が地方人にないのである。その土地に需要がないのに何故然らば遊廓地として指定したか、その理由は言はずして、明なりで、所謂醜聞の醜聞たる所以である。

▲敢て此事に關聯した話でもないが、和歌山縣の出身者たる今の第一師團經理部長日疋主計監は記者に語つて今日の公娼問題は衞生の問題でもなく、風俗の問題でもなく勿論道德の問題でもなく、只それ經濟の問題、而も極めて醜怪なる地主の問題だと喝破せられたるは急所を突いて居るやうに思はれる。

▲只聊か心を强うすることは和歌山縣の名譽を汚した三ヶ處の遊廓地といふのが何れもプロパー和歌山から言へば偏輙の地で、例へば新宮の如き和歌山市より其處に行かうとすれば殆ど同市から東京にまで行く丈の日數を要する位に山間僻地である。夫故に之が害を受くること比較的に少なく、京都大學の松浦醫學博士が言はれたる樣に、縣民の衞生狀態より言へば關西第一の好成蹟を示して居る。若し愈々三遊廓を全廢するに至つたならばその成蹟は更に優秀なるものとなるであらう。

▲世の人の我黨の主張を誤解する何ぞ甚だしき。三月の『東亞の光』には海野幸德氏の『人類の理想病』と廢娼論との一章がある。詰り、廢娼を以て理想病に取付かれて居る宗敎家の愚論であつて、現實といふ事を知らぬ理想病者の事だといふのである。何でも構ふことはないが、併し海野氏こそ現實病にでも罹つてると見え余程我黨の主張を誤解して居る。詰り論者は公娼廢止の公の字に注意しないで廢醜業婦論、廢姪行婦論と思ひ違へて居るのである。成程さういふ風に廢娼論を解釋すれば當分の内之は先づ出來ない相談であるかもしれぬ。それは恐らく人類が今一段向上進化するに非ずんば、成就することの出來ない要求であらうが、我黨の主張する要點は其處ではない。即ち嚴密に言へば廢娼といふ言葉が適當でないので、所謂公娼廢止の運動である。制度の力を以て天下の娼婦を絶滅し、社會の淫風を廓淸するといふのではなく、公許せられたる娼業を廢めやう、即ち假令娼婦の有無は兎も角之を營業として公許することは是非止めなければならぬ。と主張するのである。即ち世に盜人の種は盡ざずとも、去ればと言つて國家は公然窃盜業なるものを國民に營ましむべきものでないと同樣に、之が取締之が制裁こそ國家は嚴重にすべき筈であつて決して營業として公許すべきものでないと言ふのが要點なのである。要するに公娼廢止運動は之に對する國家の態度を改むるの運動である。斯く曰へば或はそれでは格別利益はないといふであらうが、さうでない。其理由は繼續して本誌を讀んで居ると自然に分る。

▲大阪の千人募集の計劃は彌々成功した。此稿〆切の時迄既に九百を超へて居る。其に就ても林歌子女史の熱心なる活動には只管感歎の外はない。毎日廓淸會支部の事務所たる青年會館に出勤して事務を整理し時には夜十一時頃に及ぶこともあるさうだ。青年會館の一員から承はつた。(益)

グレゴリー氏送別會

▲昨秋十月八日、遠く英國より我徒の廢娼運動援助の爲め來朝せられ、滯在方に半歲、僅に呱々の聲を擧げたる本會を扶掖誘導して其基礎を固め、幾多の効果を收めて、茲に愈々歸朝の途に就かれむとする萬國廢娼同盟會英國支部幹事モーリス、グレゴリー氏の送別會は意外に愉快なる集會であつた。

即ち二月二十七日午後四時本部前に於て一同紀念撮影の上直に神田多賀羅亭なる會場に赴き、晩餐を共にし惜別感謝の意を表した。主客左の如し。

グレゴリー氏	生江　孝之氏	守屋　東子氏
島田　三郎氏	小林富次郎氏	內ケ崎作三郎氏
島田　信子氏	角谷　和市氏	矢吹幸太郎氏
矢島　揖子氏	金井　公一氏	山田彌十郎氏
山室　軍平氏	市古　萬吉氏	山本邦之助氏
コーツ氏	加藤　直士氏	益富　政助氏
ボールス氏	大鬮　和子氏	橫山　砂氏
伊藤　秀吉氏		

▲益富常務理事司會、司會者の指命によつて、先づ矢島副會長は起つて謝辭を述べて曰く、

『昨春吉原大火以來の事を考へると夢の如き心地が致しますが、夢ではなくて大なる獲物がありました。それは廓清會の基礎が出來たといふ事を第一として種々なる成功を數ふる事が出來る。而して之實にグ氏の賜物であります。』

▲山室評議員曰く、

『本會の基礎は實にグ氏によつて立つたやうなものである。かくて日本の廓清會は今や世界の廓清會となつた。又我等はグ氏の來朝によつて此問題に關する歐洲の狀況をも知る事が出來、且グ氏の人格は此運動に最もふさはしくあつた。大人は赤子の心を失はずといふ言葉は、よくグ氏の性格をあらはしてゐる。』

▲大坂支部委員加藤直士氏は、大阪支部を代表して謝辭を述べ、更に愉快なるグ氏の逸話を述べらる。曰く、

『過般難波新地遊廓廢止運動の際、グレゴリー氏が大阪の演說を終へて歸京の途次、食堂車に食卓を同うしたる一紳士を捕へ、熱心に廢娼の必要を說いた。グ氏は元より其何人なるかを今に知らないが何ぞ計らん其紳士は大阪府知事犬塚勝太郎氏であつた。而も其後幾何もなく例の二月五日の難波新地廢止の府令は發せられたのである。「余はグ氏の熱心に少からず感動した」とは、同知事が余に語られたる直話であるが、難波新地遊廓廢止布告の裡面には、這麼逸話が潜んでゐるのである。』

グ氏は始めて汽車中の紳士が犬塚知事なりし事を知り微笑を浮べ一同の喝采を博したのは愉快であつた。

▲內ケ崎理事は得意の英語を以て氏が英國に留學中の事を語りて曰く、

『伊太利に行つた時、セントグレゴリーと云ふ寺について聞いた事がある。其れは羅馬の法王にグレゴリーといふ人があつて、やはり非常に廓清的の問題に意を用ひた人である。又英國にモーリスといふ王があつた。此人もやはり道德問題に力を注いだ人であるが、君の名はモーリス、グレゴリーといふので謂はゞ羅馬法王と英國王とを兩方合したやうなもので

ある。然るに法王は即ちポープ、グレゴリーで、君は即ちペリーピアン（平民）グレゴリーである。等しく頭文字はＰの字であるけれども、君は決して法王の如き傲つたものではなく、極めて謙譲なる好箇の平民的英國紳士である。』

▲益富理事は、ポールス氏に對しグ氏着京以來同氏を自邸に引取り今日迄親しく世話せられたる事を、廓清會を代表して謝辭を述べ。ボールス氏は起つて、英語を以て益富理事よりの挨拶に對し、

『何等の役にも立たなくて甚だ遺憾である。……然し數月間共に起臥して親しくグ氏の人格に接して學ぶ處は頗る多かつた。……尙余は廓清會が我平和協會と提携して行く事が出來るならば色々の便宜があらうと思ふ。殊に日米間の平和を增進し兩國の道德を振興する事ともなるであらう。在米日本人醜業者問題解決の如きは、確に米人の誤解を除却するに力があるであらう。』

▲山本理事は曰く、

『廓清會は恰かも消防隊のやうなものである。平素は遊んで居るやうであるが、イザ火事だといふ時には直ちに活動を始める。而して吾々はグ氏によりて消防法を習得したれば最早何時大火ありとも難波新地同樣、即時消防運動を開始し得るさるにても要する所のものは實に資金である。其につき小林富次郎氏及グレゴリー氏の同情は深く感謝する所である。』

▲最後に島田會長曰く、

『私は先づ今日迄廓 清會の爲めに働かなかつたお詫をしなければならぬ。發會當時は屢々集會にも出席したが、米國太平洋沿岸の聘に應じて渡米した爲め、何の働きをもなし得ず、米國に於ても事多くして時短き旅程であつた爲め本會の爲に盡す機會の少かつた事を遺憾とする。本年一月歸朝して見ると、グ氏によつて既に廓清會が消防演習に熟達し、大阪の如き効果を收めたのは感謝に堪えない。之から自分も諸君と共に大に消防演習を行ひ社會の毒烟を消滅せしめねばならぬ。』

▲斯くて各熱心に送別の辭を述べ最後にクレゴリー氏、答辭を述べて曰く、

『英國にヂストリクト、メッセンジャー、ボーイといふものがある。それは一區から他の區へ言傳をする爲めに通ふものであるが、之を大きくして英國より土耳古へ或は佛國へ、若くば之を逆にして、佛國より英國へ使しても、それは一種のメッセンジャー、ボーイである。私が恰も其れであつて、區のメッセンジアーボーイではないが、英國のノーブルな紳士淑女のメッセンジャーボーイとして、英國及び西洋が、惡制度を根絶せしめる爲に如何なる方法を取つたかといふ事に就て、諸君に告げ且つ御考量も願ひたい爲に來たのである。殊に矢島女史其他より幾多の教訓的な話を聞き、誠に衷心から日本のために喜んでゐる。自分は今、一つの運動を了へて日本の地を去らうとするのであるが、今度は日本のノーブルな紳士淑女のメッセンジャー、ボーイとして、英國の紳士淑女に、日本の事を告げるために歸るのである。』

▲斯て恭謙なる態度を以て一同の健康と祝福を祈り、感興盡きざるも、既に演說會の時間切迫の爲め、七時閉會したであつた。

豐橋市と遊廓移轉

大口豐橋市長談

豐橋市は三十八年以來僅々數年間に人口二倍に達し、增加の比例に於ては日本第一といふ膨脹を示してゐるが、これは市長大口氏の辣腕に負ふ所が多いのである。記者は同地の遊廓移轉に關する氏の談話を聞き得たれば、之を左に揭ぐる事とした。（文責在記者）

師團の設置といふ事は、何處でも非常に其土地の繁榮を助くるものゝ樣に思つてゐるが、併しさう金を落すやうな事はない。豐橋にも近頃師團が置かれたけれども、格別之によつて繁榮を助けられたとは信ずる事が出來ない。

豐橋市では、もと產物として薩摩芋などが出てゐた。併し薩摩芋では如何に產出高が多くなつたつて知れたもので、這麼ものではいけないといふもので大に養蠶を獎勵して見た。其結果はどうであるかといふと、今日では蠶紙の產出額は優に長野縣、群馬縣、愛知縣などと匹敵するに至り市の重要物產となつて了つた。

この養蠶の獎勵と共に市區改正をはじめ、既に第一期を終つて目下第二期の手續中で、市は更に十年計劃を立てゝ市の繁榮策を講じてゐる。其れが爲めに市債を募つた時の如き頗る好況で、第二期募集の際はあんまり申込者が多く、市長が詫びをして步いた樣な始末である。市制を布いたのは明治四十年で、昨年盛んなる市制五週年祝賀式を擧げた。

無論これ等が市の發展を促した原因である事はいふ迄もないが、今一つ見逃すべからざるは遊廓の移轉である。

豐橋遊廓はもと市の中央部にあつたので、是非共僻地に移轉の必要を認めたけれども、輕卒な事をしてはならぬと思ふので、知事や縣會議長等と熟議して內務省と交涉し、實行に至る迄殆んど三年間の星霜を閱したのであるがそれは敷地を選定したり、道路排水等に愼重なる注意を拂つたためであつた。

然るに此間に熱烈なる反對運動が起つた。多額の金を費つて運動するものもあつた。此地方から出てゐる代議士等も大分動いた。いふ迄もなく理由は市の繁榮問題である。

彼等の說く處によると、遊廓は市の繁榮を助長するものであつて、之を市の要部より移轉せしむるならば、これ迄遊廓に出入する嫖客によつて生計を立てゝゐる小間物屋、飲食店、料理店乃至魚屋酒屋等澤山の商人は、忽ち顧客を失ひ職業にはなれなければならぬ樣になり、町は急に寂れてしまうだらうといふのが、主なる反對の理由であつた。

かくて問題の火の手は益々激烈になつた。反對運動は愈々猛烈になつた。議論囂々たるうち、內務省からも調査にやつて來て、遂に決行する事となり、一昨年の八月全く移轉を終つてしまつた。

其結果反對黨の論じた通り町が寂れたであらうか、多くの失業者を出したであらうか。事實は彼等の反對論を粉碎し去つたのである。彼等の論據は目のあたり

極めて明白に破壞されたのである。元貸座敷のあつた邊りの地價はまだ滿二年にもならぬ今日、七八十圓だつたところが百圓になつた。百二十圓だつたのが百五六十圓位となつた。正業者がずつと其邊に立ち並んで、淫卑な淺草公園あたりの樣な風俗が革つて、健實な實業家によつて圍まれた。風敎上から著しい變化向上を認められる事は勿論、經濟的價値から見ても隔世の感がある位で、市の眞實の發達のためにどれ程影響を及ぼしたかも知れないのである。

靜岡縣の遊廓取締

靜岡縣ノ遊廓取締ハ公娼ノ制度ノ下ニアリテハ先ヅ以テ遺憾ナク出來テ居ル。記者ハ警官ノ案内デ隅カラ隅迄視察シ、且樓主ト娼妓トノ關係モ取調ベテ見タガ間然スベキ處ハナイ。而シテ古澤署長は今一段取締リヲ嚴ニスル方針ダサウナ。左ニ其規則全文ヲ載セテ參考ニ供スル。

靜岡縣令第二十二號　明治卅四年三月廿二日

貸座敷引手茶屋娼妓取締規則

第一條　貸座敷引手茶屋營業ハ縣令ヲ以テ指定シタル免許地域ニ限ルモノトス

第二條　貸座敷引手茶屋營業ヲセントスルモノハ左ノ各號ヲ詳記シ所轄警察官所ヲ經テ縣知事ノ許可ヲ受クベシ

一營業ノ種別、一族籍住所氏名年齡、一屋號、一營業地名番地、一家屋ノ構造坪數及其圖面

第三條　前條第一號第四號及第五號ニ異動ヲ生シタルトキハ更ニ縣知事ノ許可ヲ警察官所ヲ經テ縣知事ニ屆出ヘシ

第四條　既設ニ係ル營業家屋ノ改增築修繕等ヲ爲サントスルトキハ其構ノ圖面ヲ添付シ所轄警察官所ヲ經テ縣知事ニ屆出認可ヲ受クベシ

第五條　貸座敷引手茶屋ノ構造ハ左ノ制限ニ依ルヘシ

一三階以上ノ建築其他人目ヲ惹クカ如キ構造裝置ヲ爲サヽルコト

一階ノ房室坪數十五坪以上三十坪迄巾四尺以上ノ階段二個ヲ設置シ二十坪增ス每ニ一個ヲ增設スルコト

第六條　第二條ノ許可ヲ得家屋ノ構造落成シタルトキハ所轄警察官所ニ屆出使用ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　貸座敷營業者ハ宿屋及藝妓屋ヲ營業スルコトヲ得ス

第八條　貸座敷引手茶營業ニシテ許可ヲ得タル後六ケ月以内ニ開業セス又ハ一ケ年以上休業シタルトキハ許可ノ効ヲ失フモノトス

第九條　貸座敷引手茶屋業營者隱居又ハ死亡ニヨリ其相續者ニ於テ繼續營業セントスルトキハ十日以内ニ所轄警察官所ヲ經テ縣知事ニ屆出ツベシ

第十條　左ノ場合ニ於テハ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトアルベシ

一本則ニ違犯シ又ハ公安ヲ害スル虞アリト認メタルトキ

一他人ニ名義ヲ貸スノ事實アリト認メタルトキ

一娼妓ヲ虐待シタル事實アリト認メタルトキ

第十一號　貸座敷引手茶屋營業ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

一學校ノ徽章ヲ着ケタル學生生徒並ニ未成年者ヲ遊興セシメサルコト

一娼妓ニ張見世ヲ爲サシメサルコト

一客ノ求メサル飮食物ヲ出シ若クハ之ヲ强ヒサルコト

一通行人ニ遊興ヲ勸メ又ハ種々ノ方法ヲ以テ客ヲ誘行シ若クハ不當ノ遊興費ヲ食ラサルコト

一遊客ニ面會ヲ求ムル者アルトキ之ヲ拒ミ又ハ隱蔽スル等ノ所爲ナキコト

第十二條　遊興費ノ抵償トシテ客ノ所有品ヲ受取ラントスルトキハ本人ト同伴シテ所轄警察官所ノ承認ヲ受クヘシ

第十三條　貸座敷營業者ハ遊客ノ住所氏名年齡及對娼ノ妓名遊興費ヲ帳簿ニ記載シ翌朝午前八時迄ニ所轄警察官所ニ屆出ヘシ

第十四條　貸座敷ニ於テハ藝妓ヲ引手茶屋ニ於テハ遊客及藝妓娼妓ヲ存泊セシムルコトヲ得ス

第十五條　雇人ヲ雇入若クハ解雇シタルトキハ其族籍氏名年齡ヲ記シ三日以内ニ所轄警察官ニ屆出ヘシ

第十六條　貸座敷引手茶屋營業者營業上ニ付テハ家族雇人ノ所爲ト雖トモ其責ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十七條　貸座敷引手茶屋營業者ハ一區域每ニ正副取締各一名ヲ撰擧所轄警察官所ニ屆出ベシ規約ヲ定メタルトキ亦同シ

第十九條　取締ノ任務左ノ如シ

一營業上ニ關スル法令及官所ノ命令ヲ傳達スルコト

一貸座敷引手茶屋營業者ノ願屆ニ加印スルコト

一前各號ノ外營業上ニ關スル渾テノ取締ヲ爲スコト

第十九號　娼妓名簿ニ登錄ノ申請ヲ爲サントスルモノハ申請書ニ妓名ヲ記載スベシ

第廿條　娼妓登錄申請者ハ所轄警察官所ノ指示ニ從ヒ警察醫ノ健康診斷ヲ受クベシ

第廿一條　娼妓ハ左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ所轄警察官所ニ屆出ヘシ

一族籍氏名又ハ妓名ヲ變更シタルトキ

一就業又ハ休業シタルトキ

第廿二條　娼妓ハ廢業又ハ住居ヲ轉シタルトキハ名簿ノ削除ヲ申請スベシ

但同一免許地域内ニ於テ住居ヲ轉シタルトキハ登錄訂正ノ申請ヲ爲スベシ

第廿三條　健康診斷上傳染性疾患アリト認メラレタル娼妓ハ縣立病院又ハ治療所ニ於テ治療スベシ

治療所ノ場所及其設備ハ所轄警察官所ノ認可ヲ受クベシ



廓清會紀要

靜岡支部發會大演說會

二月二十六日、本部よりグレゴリー、島田三郎、益富政助の三氏臨席し、靜岡支部の發會式を擧げた。島田會長は歸朝以來健康勝れず、いまだ全癒されなかつたのを推して出張せられたが、靜岡敎育會は同氏に特に日米問題に就て講演を請ひ、同地メソヂスト敎會に於て、午後三時より一場の演說を試みられ、八百餘名の來會者ありて頗る盛會であつた。同六時より大東ホテルに於て同敎育會の發起にて、島田、グレゴリー、益富三氏のため有志晚餐會を催して數十名の有力なる紳士之に參會し談笑の間に閉會。愈々午後七時、市內若竹座に於て支部發會大演說會を開いた。先づ同地富士合資會社支配人原崎源作氏は、起つて開會の辭を述べ、益富常務理事登壇、廓清會の過去現在を述べて其主張の要點を明にし、更に運動の將來に及び、グレゴリー氏は英國に於ける廢娼の狀況を語りて、大に日本國民の反省に資し、次に急霰の如き拍手に迎へられて島田會長登壇、「社會の基礎」てふ題下に、快辯を以て縱橫に公娼制度の全廢せざるべからざる所以を論斷し、存娼論者をして完膚なからしめ、聽衆に多大の感動を與へ、最後に益富理事は、顧問大隈伯爵より寄せられたる祝文を朗讀し、滿場破るゝが如き喝采聲裡に閉會した。此日集る者無慮千八百名、而も滿員のため空しく立歸りたるもの幾百名なるを知らず、同地空前の盛會であつた。尙此集會が如何に成功せるかは別項『廓淸餘錄』に就て見よ。支部事務所及役員氏名は左の如し。

靜岡支部事務所　富士青年會館內

委員長　原崎源作氏

副委員長　尾崎元次郎氏

書記　田中鉦太郎氏

會計　豐島英廉氏

（其他の委員氏名は次號）

グ氏送別大演說會

二月二十七日午後七時、グ氏送別大演說會を青年會館に開く。益富常務理事司會の下に先づ理事內ケ崎作三郎氏登壇羅馬のグレゴリー大王の話より、轉じて道樂と健康に說き及び、日本に大人物の出でざるは道樂を誇りとするが如き習慣より生ずる不健康に因す、よろしく道樂をやめて健康なる體軀から大なる精力を得なければならぬと說き、更に我等の母の同性たり姉妹の同性たる醜業婦を如何にすべきかを痛論し、副會長矢島楫子氏は、本日出演の約ありし加藤弘之氏が病氣と雨天のため、缺席されたるは遺憾なりとて來會せられざりし理由を告げ、議論は諸士に讓りて降壇、本會大阪支部委員加藤直士氏は、自分は屢々加藤博士と間違へられた事がある、今日も偶然同博士の缺席に際し飛入したりとて、耶蘇

嫌びを以て有名なる加藤博士が、吾々と手を携へて共に廢娼論を叫ぶのは、如何に此問題が明白なる眞理であるかを語るものであると說き、和歌山新報社長久下豐忠氏は、昔淫風盛んなりし和歌山が、明治初年廢娼の結果全く其面目を改ため現に和歌山六十一聯隊には一人の花柳病者すらない。尤も二人程罹病者があつたが、而もそれは朝鮮守備に行つてゐた時のお土產であるとは同聯隊長が言明した處であるとて、詳細なる統計表により、花柳病者數、私生兒數、離婚者數、犯罪者數等の、廢娼縣たる群馬縣と共に和歌山縣の極めて少き實例を擧げ、更に新に公娼を設置したる岐阜及和歌山縣新宮町の統計とを比較論究し、一々事實の上より明確なる廢娼論を立し、山室氏は、グレリゴー氏が來朝せらるゝや、問題が問題であるから國民の反感を買ふ樣な事がないかと多少心配しておつた。然るにグ氏は極めて謙遜に、自分は此問題に就て日本を批評するのではない、自分達の經驗を聰明なる日本人の前に提供し參考に供するといふ態度で働かれた事は、私共の眞に敬服する處であるとて種々グ氏の人格と功業をたゝへ、廓淸會といふ嬰兒がグ氏によつて漸く獨立が出來るに至つたので、之を大成するのは即ち我等の責任なりと論じ、グレゴリー氏は、内ヶ崎文學士の通譯にて東京を倫敦に比し、大阪をマンチエスターに比し、東京に廓淸會が起り大阪に於て大成功をしたのは恰も倫敦に廢娼運動が起り、マンチエスターが率先して廢娼を斷行したのと酷似してゐるとて、英國廢娼同盟會の名士と廓淸會の役員とを巧みに比較し、政治上に於て同盟提携したる日英兩國は、更に人道上に於て英國の廢娼同盟會と日本の廓淸會と握手するに至つたのは眞に欣喜に堪えないとて、通譯と握手して滿場の喝采を博し、最後に會長島田三郎氏は、警察官や行政官は常に現狀維持者である、輿論が常に背景となつて當局者といふ俳優を働かせねばならぬ、大阪の府知事は警察部長と共に、曩に北を破り今又南を撤したとて、靜岡大阪京都等の例をひきて當局者の意嚮を告げて輿論の力を說き、轉じてグ氏の人格に論及して之を稱揚し、久しき以前より病床にある夫人を殘して遠く人道問題の爲めに來援せられ、多大の效果を收められたるを深謝し、更に我々日本人は同氏に感謝せざるべからざる事ありとて、グ氏が歸途濠州に立寄らるゝ理由は濠州人は日本人を目して侵略的國民とし之に備へんが爲めに、從來の義勇兵制度を改めて日本や獨逸の如き徵兵制度としたが、國民は徵兵制度の苦痛に堪えず世論囂々と起つてゐる。そこで日本を研究し日本人を知つたグ氏は、日本人は決して侵略的好戰的人民にあらずして、平和的進步的國民なる事を告げんが爲めに、赴かるゝのであると說き「吉原」と云ふ世界語より公娼の廢止すべきを論じ、大喝采の中に十時半閉會。此日生憎の雨天なりしにも關らず聽衆千五百名に上り、階上階下全く立錐の餘地なく、空しく入場する事を得ずして立歸りたるもの無慮數百名に及び、感奮の餘即時入會を申込みたるもの又多數、近來稀有の盛會なりき。尙ほ諸名士の演說は次號に揭載すべし。

グレゴリー氏歸る

京都の大演説に臨み、長崎より濠州に赴かるゝモーリス、グレゴリー氏は、愈ゝ三月一日午後六時半新橋發の列車にて内外の紳士淑女數十名の見送りを受け、京都支部發會に出張せらるゝ服部代議士益富理事と同乘、山室軍平氏の發聲にて、グレゴリー君萬歳の聲と共に、同氏は例のにこ〳〵した顔に日の丸の小旗を打振つて芽出度歸國の途に就かれた。當日の主なる見送人は左の如し。

ワンセイ氏	矢島揖子氏
内ヶ崎作三郎氏	ハートシヨーン孃
島田信子氏	小山内藏之助氏
ローレンス氏	大關和子氏
佐々木梅吉氏	ビシツオード氏
高原幸子氏	矢吹幸太郎氏
デビス孃	河田[illegible]子氏
山本邦之助氏	ブリーデル夫人
辻たか子氏	金井公一氏
ボールス氏	山室軍平氏

京都支部發會大演說會

（京都日の出新聞の記事を借る）

東京廓清會の主催に係る公娼廢止期成演説會は昨夜六時より開會したるが、是れに先だち萬國廢娼同監會英國支部幹事グレゴリー氏は、市内の基督敎會牧師其他有志者等と膝を交へて親しく意見を交換する所あり、グ氏は英國の人にして二十五年間の長き歐米各國を歴遊して、公娼廢止運動の爲めに奔走したるの人にして、今回日本に來り其の持論を皷吹し、次で香港濠洲に渡りて同樣運動に盡力すべしと云ふ、斯くて夜の演説會には、原田同志社長司會をなし、先づ大隈伯爵、島田三郎氏よりの祝辭を朗讀し次に廓清會理事益富政助氏登壇し公娼は文明國民としての最大の耻辱たる奴隷制度なれば米國民が人種を異にしたる黑奴を勞役に驅使することを以て非人道的なりとして、之を全廢したるに比するも、人種を同ふせる同胞姉妹に耐へ得られぬ辛き勤めを強ひ、罪惡の擒となしつゝあるを默許しつゝあるが如きは、更らにより以上の非人道的なりと謂はざるべからず、と論じて最も痛切に之が全廢を絶叫し、次にグレゴリー氏は原田助氏の紹介につれて登壇し、益富氏の通譯にて「公娼廢止の利害」と題し英國における公娼制度廢止の顚末を述べ、花柳病患者、花柳病の遺傳を受けたる兒童陸海軍壯丁等に分ち數年間の統計を擧げて公娼存置の時代に花柳病の蔓延歩合甚だ大なりしものが全廢後漸次減少して數年後の今日には殆んど五分の一以下に降りし實例を擧て公娼廢止の結果、反つて花柳病蔓延すべしとの世人の妄信を解き、其の廢止の一日も忽ふすべからざるものなるを立證する所あり、次に京都醫科大學の皮膚病黴毒科長醫學博士松浦有志太郎氏は、多年の研究に成れる専門學の見地より現時の公娼に對して行へる檢黴方法なるは、恰も太平洋に一本の昇汞水を落して消毒を行はんとするが如く、何等の役に立つものにあらず、檢黴を施さゞる私娼と何等の選ぶ所なきことより說き起して國に存在する花柳病患者の歩合は其處に在る公娼數の多少に比例し、娼妓の多き所程花柳病患者は多きを加へつゝありと斷じ、其の例證として、全國各縣別の壯丁花柳病感染歩合を示したる表を掲げ、遊廓多く公娼の散在せる東京、大阪、京都の如

きは壯丁千人中花柳病患者三十人乃至四十人に達せるに全く公娼の存置せざる群馬、和歌山の兩縣においては同じく千人の壯丁中僅かに十五人乃至十八人の患者を出せるのみなることを說明し、結局衞生上の見地より公娼は百害あつて寸益なく結局花柳病の蔓延を防ぎ健全なる國民の增殖を計らんと欲せば公娼を絕滅するか、又は存在するも之に近づかざるにありと論結し、最後に代議士服部綾雄氏は公娼は廢すべしと前提し、國家の政治は或者を犧牲にして或者を助くると云へるが如き、偏頗の見地を以て行ふべきものにあらず、各箇人を土臺として、其の權利を認め之を尊重保護するの主旨に基き行はざるべからずと前提し、貸座敷業者を一の營業と認めて之に國家を支ゆべき稅金を課し、普通の良民と伍して參政權を與ふるが如きの制度は一日も早く撤廢せざるべからず、ヨシ之を存置するも全くの非人として普通民と劃然たる區別をなす所なかるべからずと述べ、政治的見地より立論して之が廢止の至當なるを述べ、喝采聲裡に降壇したるが、當夜の聽衆は多くは青年にして男女千餘名に及び滿場立錐の餘地なく、何れも各辯士の熱心なる廢娼の聲に動かされて口々に奴隷開放を叫び、散會間際に至り一青年は思はず壇に飛び上りて、公娼制度の存置は吾人國民の中堅たる青年の一日も忍び得べからざる最大恥辱なりと絕叫するなど廢娼贊成の聲は期せずして滿場の輿論となりたるの有樣なりき。

△評議員會

二月十三日、評議員會を本部樓上に開く、出席者氏名左の如し

安部　磯雄	矢島　揖子	島田　信子
元田作之進	齋藤　壽雄	粟屋　榮子
小崎千代子	宮田　修	福島　四郎
山室　軍平	山田彌十郎	森川　抱次
高原こう子	小松　武治	益富　政助

午後三時、元田評議員の祈禱を以て開會安部副會長議長席に着き、益富理事より左の諸項の報告ありて、直に議事に入る。

報告

一、グレゴリー氏の來朝、內務省陸軍省訪問の顚末
一、群馬支部大阪部設立顚末
一、雜誌發行の狀況

議案

一、和歌山、神戸、京都、靜岡に支部設立の件
二、貴衆兩議院に公娼問題に關する 建議案提出の件
三、萬國廢娼同盟會に加盟の件
四、吉原再興反對運動の件
五、贊助會員募集の件
六、正會員募集の件
七、大演說開催の件

右の中第一項可決、第二項は常務理事に於て、我黨の代議士其他法律家の意見を 聞き合せ 便宜實行する事に確定、第三項は加盟可決、第四項は第七項の演說會を以て之に充つる事、第五項及第六項は、評議員は各贊助員たる事（但し其口數は各自由とす） 及評議員は各二十人宛の會員を募集する事、但し可成其中に三人の贊助會員を含む事とし第七項は、二月下旬若くは三月上旬の開催に可決確定

かくて、當日態々出張せられたる府下府中町志賀牧師より町長排斥問題につき詳細說明あり（別項參照）本會は可成同氏に援助を與ふる事とし、七時散會

△臨時役員會

二月二十四日、午後三時臨時役員會を本部樓上に開く、出席者左の如し

島田　三郎	安部　磯雄	矢吹幸太郎
山田彌十郎	鈴木　文治	高原こう子
益富　政助		

議案

一、役員及評議員有志に於て 醵金し 記念品をグレゴリー氏に贈呈する事
一、二十七日大演說開催の件
一、同日演說會及送別晩餐會を開く事
二、貴衆兩議院に提出すべき 公娼廢止案は 法學士鈴木文治氏に依賴の件

廓清會々員名簿 第三回

▲贊助會員之部▼ （順序不同）

住所	口數	氏名
大阪市	（三十口）	中山太一氏
大分市荷揚町	（一口）	ピータース氏
東京府下下澁谷二三四	（一口）	松野菊太郎氏
神田區美土代町四ノ四	（一口）	楠井善次郎氏
靜岡市東草深町	（一口）	マイルス氏
芝區榮町十一	（一口）	キング氏
芝區白金明治學院內	（一口）	ライシャワー氏
麻布區本村町一五三	（一口）	セシル氏
神田區北甲賀町九		西村マサ氏
東京府下千駄ヶ谷五九八	（一口）	守屋東子氏
本所區龜澤町二ノ六	（一口）	長谷川文彌氏
小石川區雜司ヶ谷	（二口）	羽仁もと子氏
吳市南城海軍々人ホーム	（一口）	十時菊子氏
牛込區市ヶ谷佐內坂町九	（一口）	富永のぶ子氏
芝區吹出町	（二口）	渡邊鐐子氏
小石川丸山町十一	（一口）	內ヶ崎作三郎氏
同	（一口）	內ヶ崎清子氏
小石川區大和町九	（一口）	福島四郎氏
東京府下淀橋四九	（一口）	粟屋榮子氏
橫濱市山手町二一二	（一口）	城戸順子氏
京橋區築地五〇番	（一口）	ライク氏
小石川區上富坂町二三	（一口）	クラッグ氏
麹町區六番町二八	（二口）	匹田將發氏
大阪市東區本町三丁目伊藤本店	（二口）	田中喜久三氏
河內國住道鐘紡會社支店	（一口）	永見一氏
麹町區五番町一二八	（一口）	津田梅子氏
神田區駿河臺鈴木町一七日昇館	（二口）	齋藤宇一郎氏
本郷區弓町一ノ一	（一口）	山口忠作氏
芝區吹出町一五	（一口）	橋本貞明氏
芝區白金三光町一一三	（一口）	山田榮次郎氏
北海道旭川六條通	（四口）	旭川婦人會
群馬縣前橋市本町一五	（一口）	柴田清策氏
同　北曲輪町	（一口）	德江亥之助氏
同　勢多郡富士見村	（一口）	桑島定助氏
同　佐和郡名和村	（一口）	森川抱次氏
同　宮郷村	（一口）	森村堯太氏
同　多野郡神川村	（一口）	宮前右太郎氏
同	（一口）	今川倉吉氏
本郷區本郷五ノ七	（一口）	渡邊喜卯馬氏

▲正會員之部▼ （順序不同）

住所	氏名
府下千駄ヶ谷八四三	高野昇氏
愛媛縣今治町中濱二	橋本兎三郎氏
同	木原安太郎氏
芝區汐留町新橋檢車所	尾花新造氏
麻布區狸穴町一九	中村鉄太郎氏
淺草鳥越町三白神方	中里正次郎氏
牛込區西五軒町五二	大西林五郎氏
愛媛縣宇和島袋町	植岡駒吉氏
神田區猿樂町二	平澤信盛氏
麹町區女子學院	安福ちゑ子氏
同	河田露子氏
山形縣酒田利衛門小路	小柴幸吉氏
同　中殺小路	本多惣太郎氏
同　染屋小路	加藤清作氏
同　上殺小路	宮田伊太郎氏
岡山市磨屋町	鈴木昌平氏
牛込區改代町一橫山方	下山田清太郎氏
本郷區弓町一ノ三	松岡道三氏
石川縣鹿島郡德田村	能州公論社
府下下澁谷六一八	瀨よし子氏
小石川區大塚三軒町二	太田光子氏
山形縣鶴岡町泉町	淺井秀氏
同　家中新町	秋葉せき氏
小石川指ヶ谷福音教會	石岡みさ子氏
本所區新小梅町二四	岩田福太郎氏
府下南葛飾郡隅田	大谷弘氏
麹町區飯田町二翠明館	永野小力氏
神田淡路町一赤村方	調武男氏
本郷區發町五一	阿部武太氏
赤坂青山南町七加古方	大井蝶五郎氏
日本橋區久松町二九	西村芳太郎氏
淺草區向柳原一ノ一	菊池忠太郎氏
神田區新銀町一五	丸山延次郎氏
神田堅大工町五五梶原方	王木心一氏
神田雉子町三一宮本方	近田良造氏
本郷金助町二七清秀館	淮井義道氏
下戸塚五七一改明館	氏家寛助氏
神田錦町三ノ九高田方	等々力直孝氏
本郷城眞砂町三〇森方	渡邊政雄氏
日本橋區城邊河岸教會內	高橋明治郎氏
京橋南小田原町二ノ三	小更松太郎氏
愛知縣長生郡一宮町	福岡謙治氏
同　同　八積村	海老根直吉氏
同　同　一宮村	桑島幹一氏
同　香取郡大須賀村	大野新助氏
府下下澁谷三五二	妹尾房次郎氏
麹町區九段中坂銀泉館	河野知嘉太氏
麹町區內幸町一ノ一五	伊藤勇氏
神田區淡路町二ノ二	根津甚吉氏
府下淀橋町角筈七六五	堤友久氏
神田區西小川町一ノ一	竹澤つれ子氏

靜岡市西草深町　井上豐作氏
同　井上れつ子氏
同　鷹匠町　山家藤次郎氏
同　山家やほ子氏
同　東草深二　宮尾泰利氏
同　鷹匠町一一〇　高木来喜氏
同　安西三町目　尾崎元次郎氏
同　西草深町六七　高崎正太郎氏
靜岡市外大岩丸山　前田恒太郎氏
同　前田幸子氏
呉市清水通海軍軍人ホーム　松村新造氏
同　桐本仲一郎氏
同　小出泰氏
同　小野梅三郎氏
同　前川吉三郎氏
同　岡田九十郎氏
同　伊藤本彦氏
同　松本辨藏氏
同　池北熊太郎氏
同（軍艦生駒）　岩橋安茂氏
神田區南甲賀町戸田館　中野睦造氏
駒込西片町十武市方　佐々木茂丙氏
小倉市停車場内　稲島武吉氏
芝區三田一ノ一六　田島信一氏
神戸水木通六ノ一四八　赤枝つれ子氏
神戸市池田村十番　武部憲吉氏
麻布區三河臺町十三　松井濟氏
同　松井いわ子氏
前橋市北曲輪町　須田明志氏
同　阿部仙太郎氏
同　野口末彦氏
同　後藤源久郎氏
同　野口せい子氏
同　曲輪町　熊谷せつ子氏
同　岩神町　今成佐吉氏
同　ベツドレー氏
同　同夫人氏
同　青柳新米氏

前橋市岩神町　杉山男司氏
同　一四九　金子尙雄氏
同　金子おなじ氏
同　橫山町　宮崎鐵三氏
同　西村銳之助氏
同　六　松宮しん子氏
同　桑町三一　宮内すみ子氏
同　片原　山内正太郎氏
同　本町　高柳好作氏
同　高橋駒次郎氏
同　一五　栗田とよ氏
同　細ヶ澤町　金子政司氏
同　奈良方　關口文次郎氏
同　五九　田中耕太郎氏
同　立川町　富岡守治氏
同　救世軍小隊　田邊能藏氏
同　諏訪町　田村作太郎氏
同　田町　高橋伊三郎氏
同　紺屋町　平賀くに子氏
同　才川町　大林峯太郎氏
同　前橋中學校　大島卯太郎氏
高崎市救世軍小隊　瀧澤大尉氏
同　瀧見町一〇五　大越鉈吉氏
同　宮元町八八　岡部太郎氏
同　岡部なを氏
同　[illegible]代町　星野きよ氏
群馬縣碓氷郡原市町　太田九之八氏
同　太田すて子氏
同　牛田兵次郎氏
同　牛田庄太郎氏
同　宮口二郎氏
同　安中町　中村庄藏氏
同　串戸金四郎氏
同　串戸庄三郎氏
同　田中瓢五郎氏
同　小林榮吉氏
同　小河初太郎氏
同　根岸橋三郎氏
同　柏木義圖氏
同　柏木かや氏

群馬縣碓氷郡安中町　松浦秋作氏
同　中村清次郎氏
同　湯淺とみ子氏
同　田中京四郎氏
同　中村喜造氏
同　板鼻町　清水次郎造氏
同　後閑村　茂木儀平氏
同　伊藤辰五郎氏
同　甘樂郡小野村　松井十藏氏
同　新藤樋太郎氏
同　神保吉五郎氏
同　北甘樂郡富岡町　中島佐久馬氏
同　山田しん子氏
同　金澤なほ子氏
同　多野郡新町　千木良芳郎氏
同　中島村　栗原・徳治氏
同　藤岡町　大戸きし子氏
同　和田信次氏
同　神川村　宮前虎一郎氏
宮川公平氏
同　黒田仲十郎氏
同　宮前兵作氏
同　堀口義一氏
同　梅島彌作氏
同　宮前清市氏
同　宮前兵武氏
同　高橋松太郎氏
同　飯塚傳吉氏
同　佐波郡境町　正田虎四郎氏
同　伊勢崎町　大澤虎雄氏
同　戸谷清一郎氏
同　住谷天來氏
同　町田濱次氏
同　名和村　大和竈太郎氏
同　山田郡桐生町　荒濟記氏
同　新田郡九合村　齋藤熊男氏
同　群馬郡澁川町　栗原老三郎氏
同　東郷村　高橋幸作氏
同　佐野村　松田榮治氏
同　室田町　清水牛三郎氏
同　中室田町　清水要氏
同　清水九一郎氏
同　清水次郎氏

（明治四十四年八月…
（明治…
毎月一回十五日發行）

去るものと來るもの

何人も**廓清を愛讀せざる可らず**

廓清が門に入らざる時は和樂と幸福は即ち去る

何人も**クラブ齒磨を常用すべし**

クラブ齒磨が口に入る時は健康と爽快は直に來る